

電子ジャーナル・学術文献データベース に関するアンケート報告書



平成18年2月

福井大学医学図書館

(空白)

目 次

「電子ジャーナルに関するアンケート」集計結果	3
調査の概要	3
調査目的・調査項目	3
調査方法	3
実施期間	3
調査対象と回答者数・回答率	3
調査の結果	4
I. あなたご自身についてお伺いします	4
II. 電子ジャーナル全般についてお伺いします	4
III. 本学における電子ジャーナル・サービスについてお伺いします	6
IV. 電子ジャーナルとプリント版の必要性についてお伺いします	9
V. その他	11
まとめ	12
「学術文献データベースに関するアンケート」集計結果	13
調査の概要	13
調査目的・調査項目	13
調査方法	13
実施期間	13
調査対象と回答者数・回答率	13
調査の結果	14
まとめ	19
資料編	20
アンケート実施要領	20
アンケート依頼電子メール	21
調査票(電子ジャーナル・アンケート依頼文)	22
調査票(電子ジャーナル・アンケート質問用紙)	23
調査票(データベース質問用紙)	26
アンケート詳細集計結果	29

(空白)

「電子ジャーナルに関するアンケート」集計結果

調査の概要

調査目的・調査項目

- 医学部における今後の電子的サービス展開の参考とするため、「電子ジャーナルの利用度、満足度、必要とするサービス、電子ジャーナル関連雑誌の必要性、経費負担方法等」について調査を行った。
- 調査に合わせ、医学分野の主要な電子ジャーナル及び学術文献データベースのトライアルを行い、利用者が各サービスについて理解を深める一助とした。

調査方法

- 医学部キャンパス(松岡地区)以外からアクセス不可能な「Web アンケートシステム」を利用することにより、不正回答を防ぎ、アンケートは記名方式を採用し、同一人物による重複回答を防ぐこととした。
- 調査依頼は、電子メール及び医学図書館 Web 上の学外アクセス不可のページで行った。大学院生はメールアドレスを把握できなかったため、指導教員にアンケート・メールの転送を依頼した。

実施期間

- 平成 17 年 10 月 17 日(月)～11 月 18 日(金)

調査対象と回答者数・回答率

- ①教員(医学部、附属病院、各センター)、②附属病院医療職員、教務職員等、③大学・院学生(修士・博士)の全員を調査対象とした。
- 全体の回答率は 28%、中でも教員の回答率は 40%となっており、このアンケート結果でもって医学部全体の傾向とすることは十分可能と考える。

区分	依頼数	EJアンケート回収数	回収率
①教員(医学部、附属病院、各センター)	272	110	40%
②附属病院医療職員、教務職員等	64	18	28%
③大学・院学生(修士・博士)	133	4	3%
合計	469	132	28%

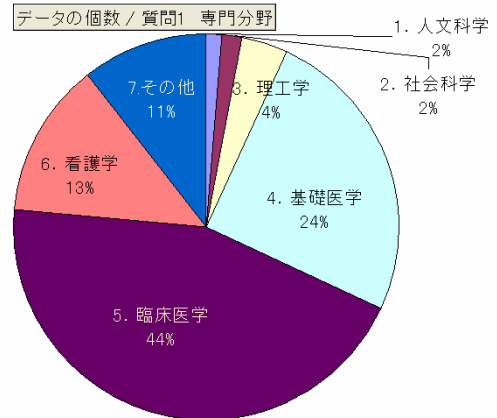
調査の結果

I. あなたご自身についてお伺いします

質問1 専門分野

質問1 専門分野はどれにあたりますか。(必須)

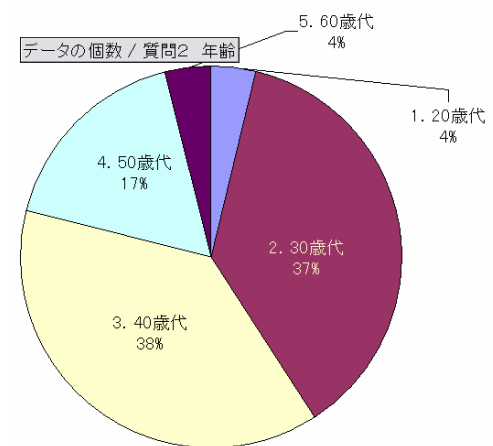
- 次のとおり各分野から回答を得た。
 1. 人文科学 = 2% (2 件)、2. 社会科学 = 2% (2 件)、3. 理工学 = 4% (5 件)、4. 基礎医学 = 24% (33 件)、5. 臨床医学 = 44% (59 件)、6. 看護学 = 13% (17 件)、7. その他 = 11% (14 件)、総計 = 132 件



質問2 年齢

質問2 年齢はどれにあたりますか。(必須)

- 次の年齢層から回答を得た。
 1. 20 歳代 = 4% (5 件)、2. 30 歳代 = 37% (49 件)、3. 40 歳代 = 38% (50 件)、4. 50 歳代 = 17% (23 件)、5. 60 歳代 = 4% (5 件)、総計 = 132 件



質問3 身分

質問3 身分はどれにあたりますか。(必須)

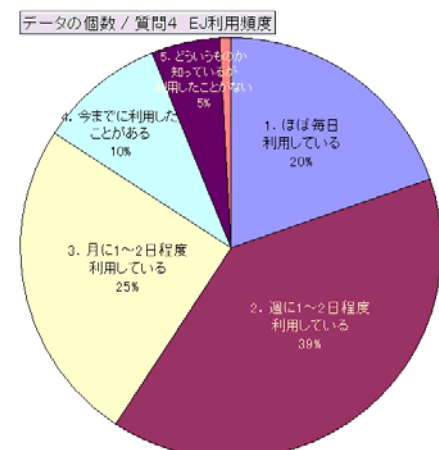
- 助手の回答が 34% (44 件) と比較的目立つが、身分に関係なくほぼまんべんに回答を得た。
- 次の身分毎の回答を得た。
 1. 教授 20% (27 件)、2. 助教授 15% (20 件)、3. 講師 14% (19 件)、4. 助手 33% (44 件)、5. 大学院生 3% (4 件)、6. その他 14% (18 件)、総計 100% (132 件)

II. 電子ジャーナル全般についてお伺いします

質問4 EJ利用頻度

質問4 ここ1~2年、電子ジャーナルをどの程度利用していますか。(1つだけ) (必須)

- 回答者の 59% (78 件) が電子ジャーナルを非常によく利用していることがわかる。「ほぼ毎日利用している (20%、26 件)」+「週に 1~2 日程度利用している (39%、52 件)」
- 専門分野別に見ると、基礎医学と臨床医学が電子ジャーナルを良く利用している。看護学の利用は比較



的少ない。年齢別に見ると、「30-40代」が最も良く電子ジャーナルを利用している。「質問2 年齢」の集計結果からもわかるとおり、このグループがアンケートに積極的に回答している。

(専門分野別)

(単位:件)

	1. 人文学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7. その他	総計
1. ほぼ毎日利用している			1	13	10	2		26
2. 週に1~2日程度利用している			2	17	28	2	3	52
3. 月に1~2日程度利用している	1	1	1	2	16	5	7	33
4. 今までに利用したことがある	1		1	1	2	6	2	13
5. どのようなものか知っているが利用したことがない		1			2	2	2	7
6. 知らなかった					1			1
総計	2	2	5	33	59	17	14	132

質問5 EJ使用しない理由

質問5 電子ジャーナルを利用していない方にお聞きします。電子ジャーナルを利用しない理由は何ですか。(いくつでも)

- 「利用したいタイトルがない」、「研究分野の収録が少ない」を併せて40%(全25件中の10件)になる。
- 「電子ジャーナルを利用しない」のではなく、「利用する電子ジャーナルがない」グループが相当数存在しているということがわかる。

(単位:件、%)

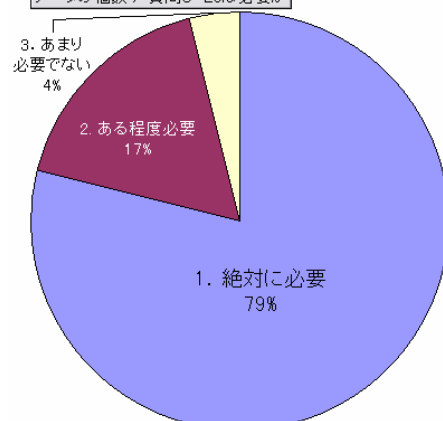
理由	回答数	比率
1. 利用したいタイトルがない	4	16%
2. 研究分野の収録が少ない	6	24%
3. 利用方法がわからない	2	8%
4. プリント版があれば十分だから	2	8%
5. バックナンバーが不十分だから	2	8%
6. パソコン画面では読みにくい	4	16%
7. インターフェースが使いにくい	0	0%
8. ダウンロードに時間がかかる	2	8%
9. その他	3	12%
総計	25	100%

質問6 EJは必要か

質問6 今後の研究活動のために電子ジャーナルは必要ですか。(1つだけ)(必須)

- 「絶対に必要」と「ある程度必要」を併せて96%(全132件中の127件)を超えている。このことから電子ジャーナルを積極的に整備する必要性が伺える。
- 専門分野別に見ると、医学系(基礎と臨床)に「絶対に必要」との回答が多い。

データの個数 / 質問6 EJは必要か



(専門分野別)

(単位：件)

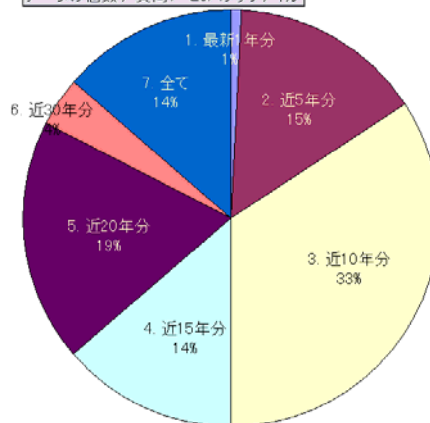
	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7. その他	総計
1. 絶対に必要		1	2	32	52	7	10	104
2. ある程度必要	1		3	1	5	9	4	23
3. あまり必要でない	1	1			2	1		5
総計	2	2	5	33	59	17	14	132

質問7 EJ バックファイル必要期間

質問7 電子ジャーナルのバックファイルが何年分あれば満足しますか。(1つだけ)

- 50%(全 132 件中の 67 件)が「近 10 年分にアクセスできれば満足する」と回答している。
- 本学では Science Direct は近 11 年分(1995-)、Springer と Nature が近 9 年分(1997-)アクセスできる。医学部で利用する主な電子ジャーナルについては、回答者の半数の需要を満たしていると考えられる。
- 専門分野別に見ても、全体の傾向と同じである。

データの個数 / 質問7 EJバックファイル

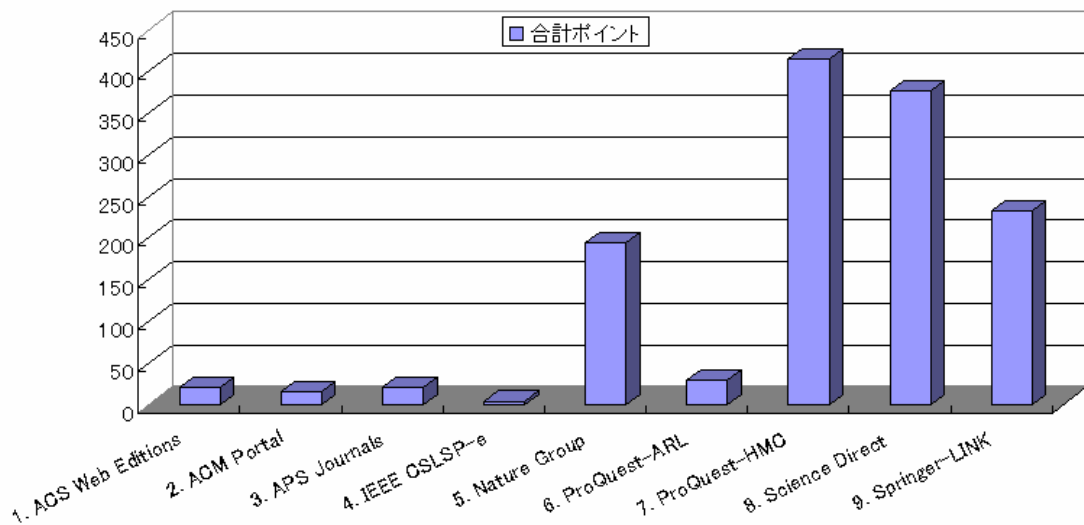


Ⅲ. 本学における電子ジャーナル・サービスについてお伺いします

質問8 よく利用するEJ

質問8 福井大学が提供している電子ジャーナルで、よく利用するものはどれですか。(5つまで)

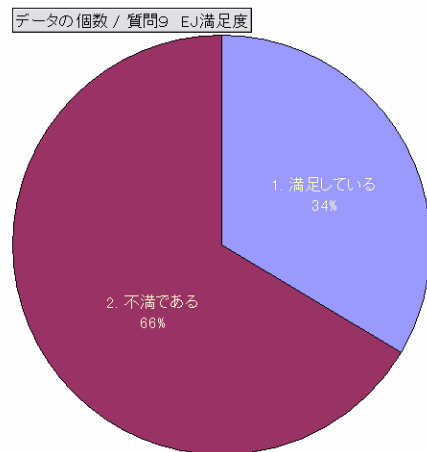
- よく利用する電子ジャーナルの1位から5位までに対し、「1位=5点、2位=4点、3位=3点、4位=2点、5位=1点」のポイントを付与して集計を行った。
- アンケートから見ると
ベスト4は、「1位:ProQuest-HMC = 医学系(416ポイント)」、「2位:Science Direct(Elsevier) = 全分野(377ポイント)」、「3位:Springer-LINK = 全分野(233ポイント)」、「4位:Nature Publishing Group = 自然科学系(194ポイント)」である。
- 利用統計(2005年1月~10月)から見ると
アンケート結果とは全く異なり、「1位=Science Direct 21,192件」、「2位=Nature Publishing Group 3,026件」、「3位=ProQuest-HMC 2,589件」、「4位=Springer-LINK 1,324件」の順となり、Science Directの利用が圧倒的に多い。
- 利用者の意識と、実際の利用頻度には相当ずれがあることが判明した。
整備計画を策定するにあたってはアンケート結果だけでなく、利用統計も参考にすることが伺える。



質問9 EJ満足度

質問9 現在、ご自分が利用できる電子ジャーナル・サービスに満足していますか。(1つだけ)

● 回答者の66%(有効回答全122件中の81件)が電子ジャーナル・サービスに不満を持っている。この数値は無視できないものと考えられる。専門分野別に見ると、臨床医学の不満67%(有効回答全54件中の36件)を大きく上回り、基礎医学の不満が80%(全33件中の26件)にも及んでいる。このことから基礎医学の電子ジャーナルを充実する必要があることが読み取れる。理工学については文京地区の動向を見ながら検討する必要がある。



(専門分野別)

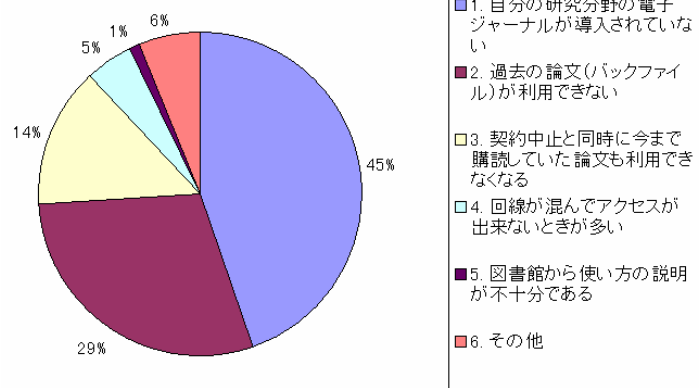
(単位: 件)

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7. その他	総計
1. 満足している		1	1	7	18	9	5	41
2. 不満である	2		4	26	36	6	7	81
総計	2	1	5	33	54	15	12	122

質問10 不満点

質問10 「不満である」と答えられた方にお聞きします。どのような点が不満ですか。(いくつかでも)

● 「自分の研究分野の電子ジャーナルが導入されていない」という回答が45%(全150件中の67件)となっており、「電子



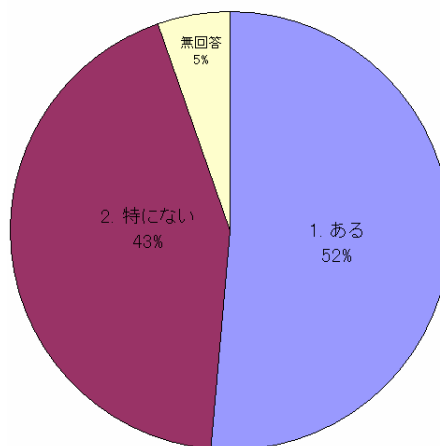
ジャーナル満足度」の回答と併せ、新たな電子ジャーナル・サービスの必要性が伺える。

- 「その他」には「図書館から使い方の説明が不十分である」という回答もあり、今後の図書館における研修・講習会の在り方について考える必要がある。

質問 11 EJ新規希望の有無

質問 11 現在購読している電子ジャーナル・サービス以外に新たに導入を希望するものがありますか。(1つだけ)

- 「質問 9 EJ満足度」では66%が「不満」と回答している。これよりやや下回るが52%(全132件中の68件)が新たな電子ジャーナル・サービスを望んでいる。
- 専門分野別に見ると、基礎医学の回答者が新規の電子ジャーナル・サービスを希望する割合が76%(全33件中の25件)と非常に高い。「質問 9 EJ満足度－専門分野別」の集計結果と同様に、基礎医学の電子ジャーナル・サービスの充実が必要であることが伺える。



(単位:件)

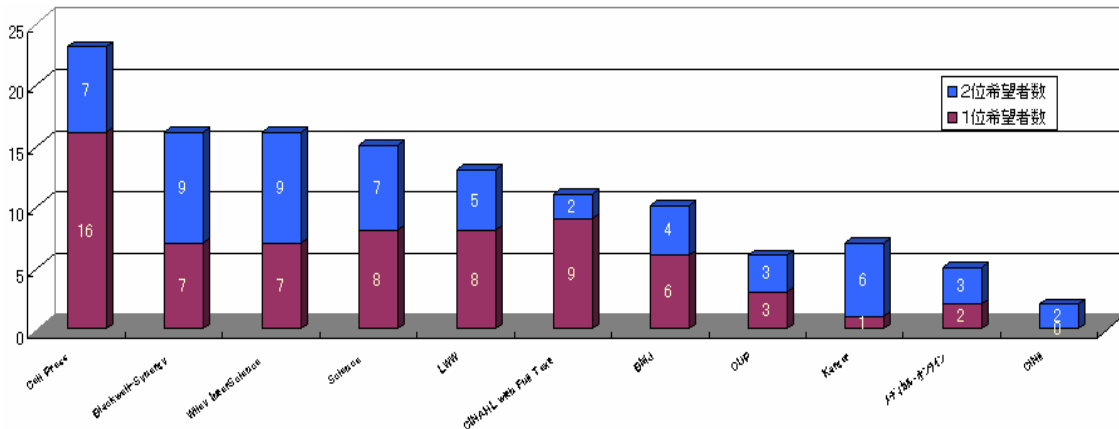
	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7. その他	総計	
1. ある				1	25	29	8	5	68
2. 特にない		2	2	4	7	27	8	7	57
無回答				1	3	1	2	7	
総計		2	2	5	33	59	17	14	132

質問 12-13 EJ新規希望、

質問 12 「ある」と答えられた方にお聞きします。希望するサービスが右のリストにある場合は、該当のものを選んでください。(2つまで)

質問 13 「導入候補リスト」に希望するものがない場合は、回答欄に希望するサービスをご記入ください。(2つまで)

- 第1位希望に10ポイント、第2位希望に5ポイントを付与して集計を行った。
- 「Cell Press」が23人(195ポイント)と圧倒的に希望が多く、「Blackwell」、「Wiley」、「Science」の3つが同率2位(16人115ポイント)となっている。
- 「Cell Press」希望者の所属は、基礎医学を中心に臨床医学まで幅広く及んでいる。
- 「CINAHL with Full Text」は全体的に見れば6位であるが、新規希望1位グループだけを見ると「Cell Press(16人)」に次いで第2位(9人)となっており、看護学における要望が現れている。
- 国内雑誌の電子ジャーナル「メディカル・オンライン」は、アンケートでは希望順位10位(35ポイント)と低いですが、トライアルでは3ヶ月間に364件(121件強/月)のフルテキスト閲覧があった。今回のトライアルでは最新号を利用できないにもかかわらず、かなりのアクセスがあったということは一定の需要があることが推測される。



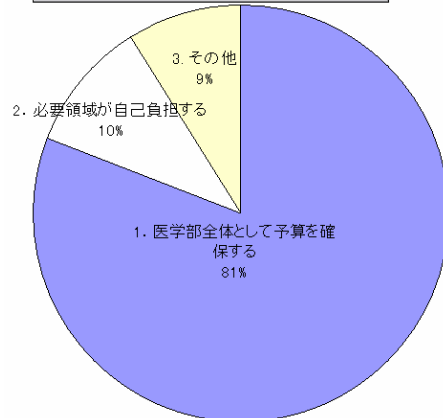
質問 14 新規 EJ 予算確保

質問 14 「質問 11」で「ある」と答えられた方に引き続きお聞きします。

新たなサービスに必要な予算は、どのようにして確保すればよいでしょうか。（1つだけ）

- 新たな電子ジャーナル・サービスを提供するために必要な予算は「医学部全体として予算を確保する」という回答が81%（全68件中の55件）を占めた。「全学的に予算を確保する」という選択肢を示さなかったために、このような結果となったことが推測される。
- 「その他」の6件もすべてが、何らかの形で「全学的に予算を確保することが望ましい」との回答であった。
- 今回、「全学的に予算を確保する」という回答の選択肢を示さなかったのは、新規サービスの予算を全学的に確保する見込みが全くないためである。

データの個数 / 質問14 新規購読予算の確保方法



IV. 電子ジャーナルとプリント版の必要性についてお伺いします

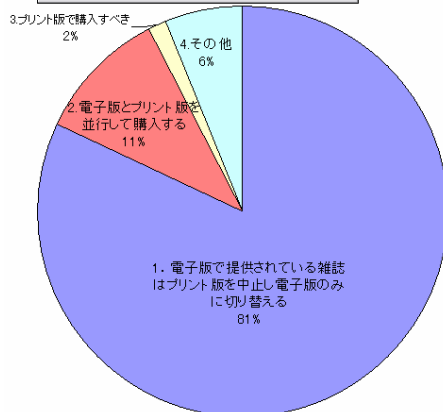
質問 15 EJ で利用できる雑誌の印刷体は必要か

質問 15 今後、大学全体としてどのような方式で雑誌を購入していくべきだとお考えになりますか。

限られた予算の有効活用をはかる意味でも「電子ジャーナルとプリント版の関連性をご覧になった上でご回答ください。（1つだけ）（必須）

- 「電子ジャーナルで利用できる雑誌のプリント版を購入する必要があるか」との質問には、81%（全132件中の108件）が「中止してもよい」という回答であった。
- このことから「電子ジャーナルを中心とした学術情報提供及び資料整備計画を策定する必要があることが伺える。
- しかし、電子ジャーナルのみでの学術情報提供を許容している回答者の中にも出版社主導のパッケージ契約、ビッグ・ディール契約についての警戒する意見

データの個数 / 質問15 EJ関連雑誌の必要性



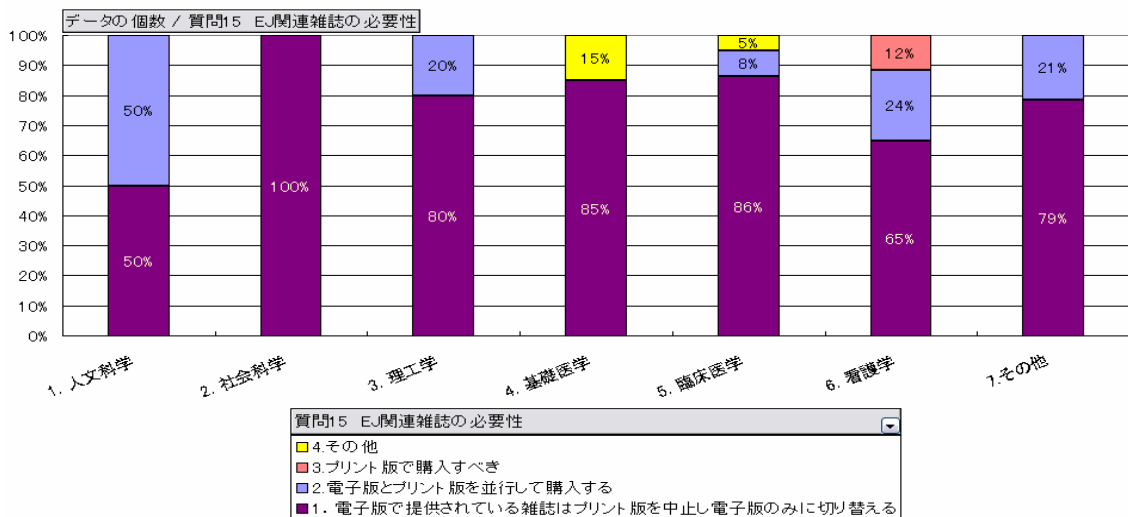
が多い。

- 専門分野別に見ると、全ての分野で「電子ジャーナルのみによる学術情報提供」を許容した回答が圧倒的に多い。「雑誌はプリント版で購入すべき」と回答したのは、看護学の2件のみである。
- 利用頻度別に見ても、全体と同じ傾向であるが、「電子ジャーナルを利用したことがないグループ」であっても44%(全9件中の4件)が「電子ジャーナルで利用できる雑誌のプリント版を中止してよい」と回答していることは注目に値する。

(専門分野別)

(単位：件)

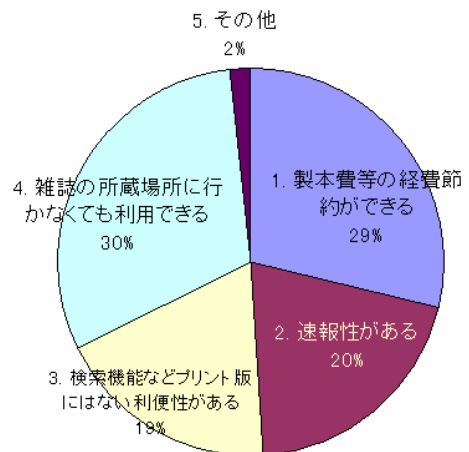
	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7. その他	総計
1. 電子版で提供されている雑誌はプリント版を中止し電子版のみに切り替	1	2	4	28	51	11	11	108
2. 電子版とプリント版を	1		1		5	4	3	14
3. プリント版で購入すべ						2		2
4. その他				5	3			8
総計	2	2	5	33	59	17	14	132



質問 16 EJ で利用できる雑誌の印刷体が不要な理由

質問 16 「電子版で提供されている雑誌はプリント版を中止し電子版のみに切り替える」と答えられた方に、その理由をお聞きます。(いくつでも)

- 「雑誌の所蔵場所に行かなくても利用することができる」という回答が30%(全301件中の93件)と最も多い。その他電子ジャーナルの速報性や検索機能についての利便性があげられており、研究室等いながら学術情報を入手できる電子図書館環境の整備をさらに推進する必要があることが伺える。
- 電子ジャーナルは、画質の面で劣るとの意見が多いが、「その他」の意見に「画質が複写よりもきれい」との回答があった。これは購読雑誌が減った現状で

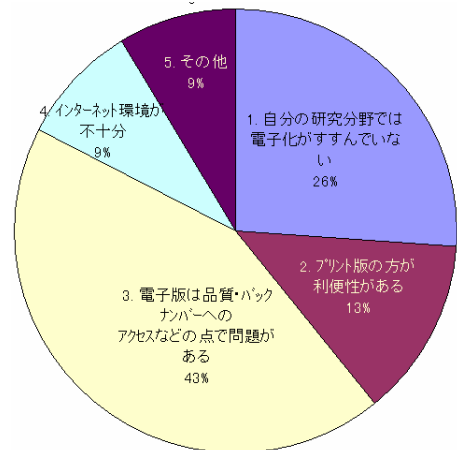


は、本学所蔵雑誌を閲覧するよりも他大学等へ複写依頼することが多いため、このような回答となったと思われる。

質問 17 EJ で利用できる雑誌の印刷体が必要な理由

質問 17 「電子版とプリント版を並行して購入する」または「プリント版で購入すべき」と答えられた方にその理由をお聞きします。(いくつでも)

- 「電子版は品質やバックナンバーへのアクセスなどの点で問題がある」との回答が全体の43%(全23件中の10件)、「自分の研究分野では電子化がすすんでいない」が26%(全23件中の6件)となっている。
- 品質に関してはいえば、学外への複写依頼によって入手できるコピーよりも電子ジャーナルははるかに鮮明であり、特殊な場合を除いて問題はないと考えられる。
- 問題は「バックナンバーへのアクセス」であるが、予算の関係でプリント版を大幅に中止した現在では、バックナンバーのアクセスは大きな問題とはならないと考えられる。
- 「その他」には「電子ジャーナルのみの場合、予算がひっ迫して継続できなくなると、過去にさかのぼって大学全体が文献等を学外に全て依存することになる。そのため、限定したコア・ジャーナルについては、プリント版も購入した方が良い。」という意見があった。しかし、少数のタイトルをバックナンバーとして確保することにどれだけのメリットがあるのか疑問が残る。むしろ、福井大学の研究基盤を支えるための予算を確保するよう努めることが最善の道と考える。



V. その他

質問 18 電子ジャーナルと学術文献データベース以外に、どのような電子的サービスを希望しますか。

- 主な要望としては、「ネットワークを利用した文献複写サービスである DDS (Document Delivery Service) の実施」、「医学図書館に無線 LAN スポットを設置」、「人口動態統計や地図情報の提供」があった。
- このほかに学術論文の引用情報を知るためツール (Web of Science 等)、診療用ツールの拡充についての意見もあったが、本学ではこれらを学術文献データベースとして扱っているため、同時に実施した「学術文献データベースについてのアンケート」の集計結果の項で考察する。

質問 19 電子ジャーナルについて、日頃感じていることがあれば自由にご記入ください。

- 目立った意見としては、「質問 15 EJ 印刷体の必要性 - その他」と同様に「出版社主導のパッケージ契約、ビッグ・データ契約は横暴である」との意見があった。
- 「以前よりも医学系の電子ジャーナル・コレクションが減少した」との意見もあったが、電子ジャー

ナルはキャンパス別契約が不可能なため、旧福井医科大学と旧福井大学のコレクション調整を行い、Wiley-Interscience を中止した影響による。

- 電子ジャーナル等講習会の充実についての意見もある。
- 今後、図書館として整備を考えている機能である「利用者が必要とする電子ジャーナル、学術文献データベース、インターネット上の学術リソース等の必要な情報を全てワン・ストップでサービスするポータル機能」についての要求があった。これについては平成 19 年 3 月導入予定の新附属図書館システムで実現できればと考えている。

まとめ

- アンケート回答者の 60%が電子ジャーナルを非常によく利用しており、さらに電子ジャーナルの整備を推進する必要がある。
- アンケート回答者の 61%が「利用できる電子ジャーナル・コレクションの種類」に不満を持っている。特に基礎医学分野の不満が 80%と非常に高く、この分野の電子ジャーナルを充実する必要がある。
- 新規に電子ジャーナル・コレクションを提供するための予算は、本来ならば「全学的に予算を確保する」ことが最も望ましい。しかし、法人化以後の厳しい予算状況を考えると、現状以上の予算を新たに確保する見込みは全く立たない。医学部における学術情報基盤を整備するための予算は「医学部全体として確保する」必要がある。アンケートでも全回答の 81%が同様の意見であった。
- 「電子ジャーナルで利用できる雑誌のプリント版を購読する必要があるか」との質問には、81%が「中止してもよい」という回答している。これを受けてプリント版を中止し、その予算を有効活用する新たな視点に立った資料整備計画を策定する必要があると考える。

「学術文献データベースに関するアンケート」集計結果

調査の概要

調査目的・調査項目

- 医学部における今後の電子的サービス展開の参考とするため、「学術文献データベースの利用度、満足度、必要とするデータベース、経費負担方法等」について調査を行った。
- 調査に合わせ、医学分野の主要な電子ジャーナル及び学術文献データベースのトライアルを行い、利用者が各サービスについて理解を深める一助とした。

調査方法

- 医学部キャンパス(松岡地区)以外からアクセス不可能な「Web アンケートシステム」を利用することにより、不正回答を防ぎ、アンケートは記名方式を採用し、同一人物による重複回答を防ぐこととした。
- 調査依頼は、電子メール及び医学図書館 Web 上の学外アクセス不可のページで行った。大学院生はメールアドレスを把握できなかったため、指導教員にアンケート・メールの転送を依頼した。

実施期間

- 平成 17 年 10 月 17 日(月)～11 月 18 日(金)

調査対象と回答者数・回答率

- ①教員(医学部、附属病院、各センター)、②附属病院医療職員、教務職員等、③大学・院学生(修士・博士)の全員を調査対象とした。
- 全体の回収率は 21%、教員の回収率は 29%と電子ジャーナルに比べてやや回答率が低いですが、ほぼ全分野からの回答を得ることができた。このアンケート結果でもって医学部全体の傾向とすることは十分可能と考える。

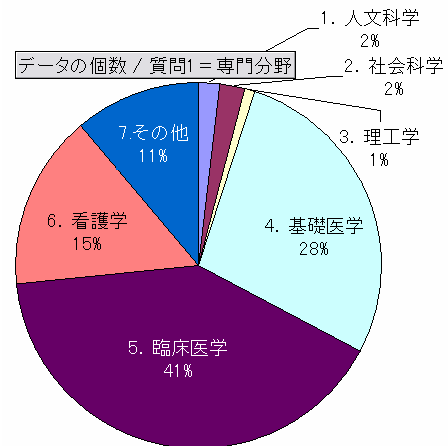
区分	依頼数	DBアンケート回収数	回収率
①教員(医学部、附属病院、各センター)	272	80	29%
②附属病院医療職員、教務職員等	64	2	3%
③大学・院学生(修士・博士)	133	16	12%
合計	469	98	21%

調査の結果

質問1 専門分野

質問1 専門分野はどれにあたりますか。(必須)

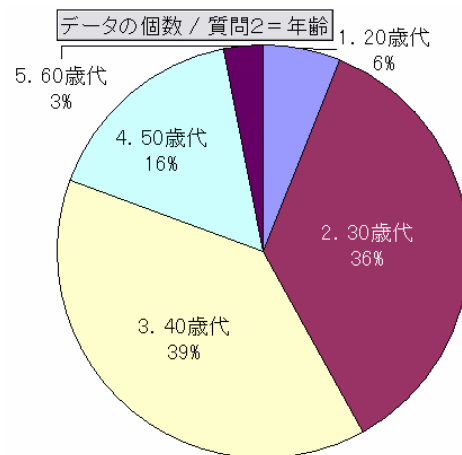
- 次のとおり各分野から回答を得た。
 1. 人文科学 = 2% (2 件)、2. 社会科学 = 2% (2 件)、3. 理工学 = 1% (1 件)、4. 基礎医学 = 28% (27 件)、5. 臨床医学 = 41% (40 件)、6. 看護学 = 15% (15 件)、7. その他 = 11% (11 件)、総計 = 98 件



質問2 年齢

質問2 年齢はどれにあたりますか。(必須)

- 次の年齢層から回答を得た。
 1. 20 歳代 = 6% (6 件)、2. 30 歳代 = 36% (35 件)、3. 40 歳代 = 39% (38 件)、4. 50 歳代 = 16% (16 件)、5. 60 歳代 = 3% (3 件)、総計 = 98 件
- 電子ジャーナル・アンケートと同様に「30-40 代」が積極的に回答していることがわかる。(全回答中の 74%)



質問3 身分

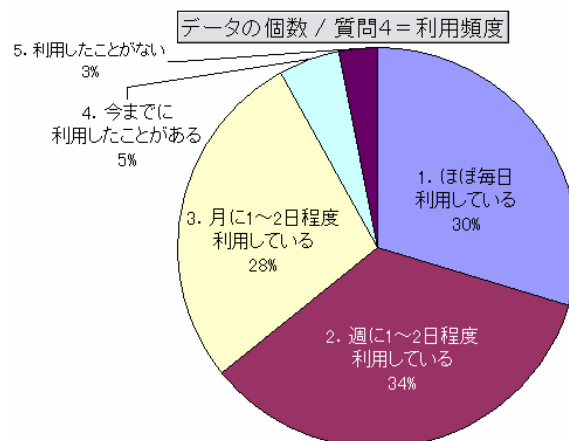
質問3 身分はどれにあたりますか。(必須)

- 次の身分毎の回答を得た。
 1. 教授 18% (18 件)、2. 助教授 13% (13 件)、3. 講師 13% (13 件)、4. 助手 37% (36 件)、5. 大学院生 2% (2 件)、6. その他 16% (16 件)、総計 100% (98 件)

質問4 DB 利用頻度

質問4 ここ1~2年、データベースをどの程度利用されていますか。(1つだけ)(必須)

- 回答者の 64% (全 98 件中の 63 件) がデータベースを非常によく利用している。この比率は電子ジャーナル・アンケートの利用頻度とほぼ一致している。(「ほぼ毎日利用している 29 件」+「週に 1~2 日程度利用している 34 件」)
- 専門分野別に見ると、基礎医学分野が突出してデータベースを利用している。63% (全 27 件中の 17 件) が「ほぼ毎日利用している」と回答、「週に 1~2 日程



度利用している」と回答したグループを併せると90%(全27件中の24件)にも及ぶ。

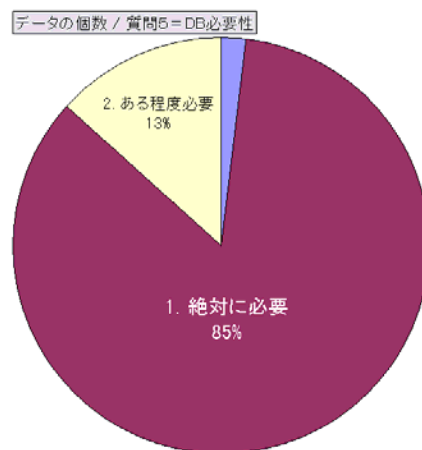
(単位:件)

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7. その他	総計
1. ほぼ毎日利用している				17	10	2		29
2. 週に1~2日程度利用している				7	15	8	4	34
3. 月に1~2日程度利用している		1	1	3	14	5	3	27
4. 今までに利用したことがある	2						3	5
5. どのようなものか知っているが利用したことがない		1			1		1	3
総計	2	2	1	27	40	15	11	98

質問5 DBは必要か

質問5 データベースを利用されている方にお聞きします。今後の研究活動のために、データベースはどの程度必要ですか。(1つだけ)

- 「絶対に必要」が85%(全98件中の83件)、「ある程度必要」が13%(全98件中の13件)、「両方を併せると、電子ジャーナルの同様の質問に対する回答79%を上回り、ほぼ100%となる。「あまり必要でない」という回答は0件であった。
- 専門分野別に見ても、全体と同じ傾向にある。

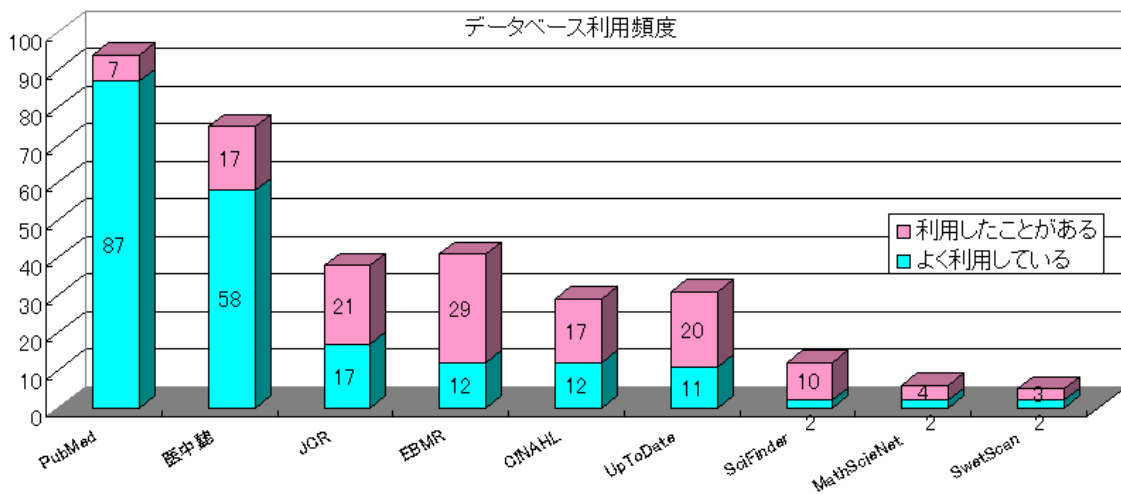


質問6 DB利用頻度

質問6 福井大学が提供しているデータベースの利用頻度についてお聞きします。

- よく利用するデータベースのベスト5は、1位:PubMed(よく利用している87件、利用したことがある7件)、2位:医中誌Web(よく利用している58件、利用したことがある17件)、3位:JCR(よく利用している17件、利用したことがある21件)、4位:EBMR(よく利用している12件、利用したことがある29件)、5位:CINAHL(よく利用している12件、利用したことがある17件)である。この中でCINAHLは対象分野が看護に限定されているにもかかわらず第5位となっており、非常によく利用されていると評価してよいであろう。
- 一方、EBMによる医療を支援するデータベースであるEBMRは臨床系の57%(96件中の55件)が、UpToDateは68%(全96件中の65件)が「利用したことがない」と回答している。
- その他、導入しているデータベースの有効利用を図るために、医学図書館Web上で分野別にデータベースへ案内できる階層的なメニューを用意するなど、利用者の便宜を図るなどの工夫も必要である。
- JCRの利用では「ほぼ毎日利用する」との回答はないが、これは研究動向を把握する場合も、研究者評価のために利用される場合も、ある程度のサイクルで利用されることになるため、当然の結果といえる。

全体の利用者の 59%が「利用したことがない」と回答しているため、このデータベースについても利用方法等を周知し、学術研究に役立つものであることを積極的に伝える必要がある。



質問 7 満足度

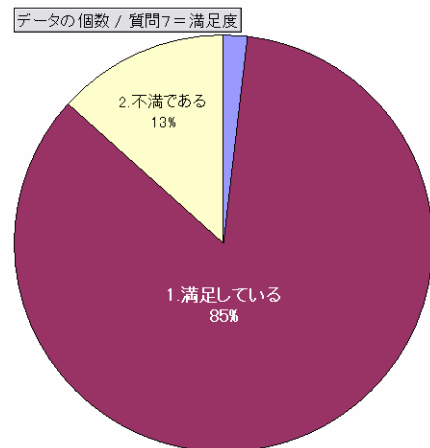
質問 7 現在利用できるデータベースに満足していますか。(1つだけ)

- 回答者の 85% (全 98 件中の 83 件) が現状のサービスで「満足している」と回答している。

「質問 12 データベースについての意見・要望」でも、「医学分野のデータベース(PubMed または医中誌)と Google Scholar があれば満足と」の意見があった。

- 専門分野別に見ると、満足度が最も高いのは基礎医学で、96% (全 27 件中の 26 件) とほぼ全員が満足している。比較的満足度が低いのは看護学で 20% (全 15 件中の 3 件) が「不満である」と回答している。

- 利用頻度別に見ると、データベースをよく利用しているグループ(「ほぼ毎日利用している」+「週に1~2日程度利用している」)のうち、70% (全 83 件中の 58 件) が満足と回答している。「不満である」と回答したグループでも「月に1~2日程度利用している」を含めると 92% (全 13 件中の 12 件) となっており、一応利用できるデータベースがあることが推測される。



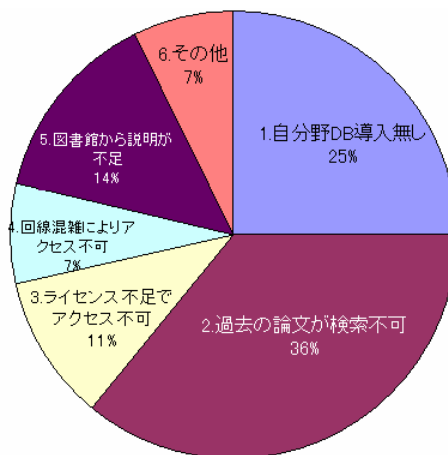
(単位: 件)

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7. その他	総計
1. 満足している	1	1		26	33	12	10	83
2. 不満である			1	1	7	3	1	13
無回答	1	1						2
総計	2	2	1	27	40	15	11	98

質問 8 どのような点が不満か

質問 8 「不満である」と答えられた方にお聞きします。どのような点が不満ですか。(いくつでも)

- 最も多い回答は「過去の論文が検索できない」の 36%(全 28 件中の 10 件)である。
- しかし、外国雑誌の論文(PubMed)は 1951 年から検索でき、国内発行の論文は医中誌が 1983 年から、国立国会図書館の雑誌記事索引は「人文科学編」が 1948 年、医学関連分野を含む「科学技術編」が 1975 から検索が可能である。看護学分野の CINAHL は比較的遡及年数が少ないが、雑誌によっては 1982 年からの検索が可能である。
- 各種データベースを併用することにより相当古い年代からの検索が可能であるが、利用者これらの情報が十分に伝わっていないと思われる。医学図書館 Web 上に、年代別にデータベースを使い分けることができるメニューを用意するほか、学内への周知が必要と考えられる。

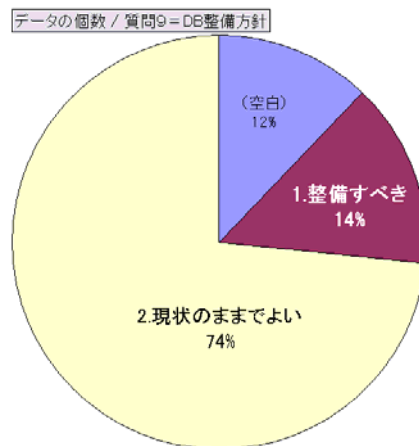


質問 9 DB 整備方針 質問 10 DB 新規希望

質問 9 今後、松岡地区としてデータベースをさらに整備すべきとお考えでしょうか。

質問 10 「整備すべき」とお答えになった方にお聞きします。どのようなデータベースを整備する必要がありますか。「データベース名」をご記入ください。(2つまで)

- 「質問 7 満足度」で、85%(全 98 件中の 83 件)が満足と回答しているが、その結果どおり、ほとんどの回答者(74% 全 98 件中の 72 件)が「現状のままでよい」としているので、当面は現在のデータベースを提供していけばよいと考えられる。
- 専門分野別に見ると、ほとんど全体の傾向と同じであるが、看護学分野において「整備すべき」との意見が 20%(全 14 件中の 3 件)と他の分野に比べると多い。そのほかの質問でも看護学分野の回答からは、幾つかの要望をくみ取ることができる。1 つは「質問 8 不満点-その他」の回答に現れる心理学文献データベースのPsycINFO、もう 1 つは「質問 10 DB 新規希望」の回答に現れるBritish Nursing Indexの導入である。



(単位：件)

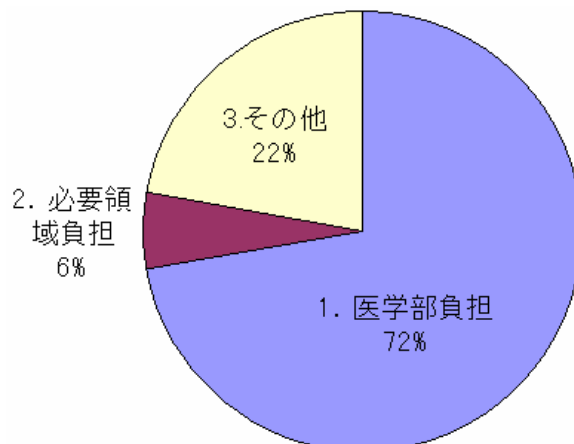
	1. 整備すべき	2. 現状のままでよい	無回答	総計
1. 人文科学		1	1	2
2. 社会科学		1	1	2
3. 理工学		1		1
4. 基礎医学	2	20	5	27
5. 臨床医学	7	30	3	40
6. 看護学	3	10	2	15
7. その他	2	9		11

- SciFinder Scholar（化学分野）については、ネットワーク経由の利用についても要望として掲げられているが、松岡地区総合情報処理センターの対応を待つより方法がない。（ネットワーク利用の契約となっているが、松岡地区のセキュリティ等の関係から医学図書館でしか利用できない。）
- 文京地区で利用可能となっている「大宅壮一雑誌記事索引」と「朝日新聞戦前紙面データベース」についても要望があるが、イントラネット版（医学図書館に CD/DVD-ROM サーバーが必要）のため実現は非常に困難である。当面、総合図書館へ足を運んでの利用をお願いしたい。
- 同時に実施した「電子ジャーナルに関するアンケート」の中で、学术论文の引用文献データベースである Web of Science、診療用ツールである Clinical Evidence が新規要望として掲げられている。引用文献データベースは、毎年数百万円以上の経費を必要とするため、導入に当たっては全学的な見地から検討する必要がある。
診療用ツールとしては、EBMR や UpToDate を既に導入しているが、非常に利用率が低い。これらの有効利用を図ることが先決であると考える。

質問 11 新規 DB 予算確保

質問 11 「整備すべき」とお答えになった方に引き続きお聞きします。新たなデータベースの整備に必要な予算は、どのようにして確保すればよいでしょうか。

- 「質問 9 DB 整備方針」で「今後さらにデータベースを整備すべき」と回答したグループに対する質問のため、回答数は 18 と少ないが、72%（全 18 件中の 13 件）が「医学部として予算を確保する」と回答している。
- 「その他」の回答は 4 件あり、その中の 50%（全 4 件中の 2 件）が「大学として確保」するように求めている。これについては 18 年度から医学・総合両図書館で必要なデータベース購読予算を附属図書館共通経費として一本化することとなっているが、学部によって必要なデータベースが異なるため、いくつかの問題も抱えている。
- このほか「外部資金の中から一定割合を拠出する」との回答もあった。



質問 12 DB についての意見・要望

質問 12 データベースの整備について、ご意見・ご要望がありましたらご記入ください。

- この質問に対する回答の「個人的には PubMed と医中誌さえ使えたら、あまり困りません。」「PubMed 以外は使わないので、特にありません。」という回答や、「質問 7 満足度」に対する回答の「医学分野のデータベース(PubMed または医中誌)と Google Scholar があれば満足」との回答が医学部における代表的な意見であろう。
- 学術論文検索エンジン「Google Scholar」について言及している回答も 2 件あったが、アンケートの回答としては現れていないが、非常に有用なツールである Google Scholar を利用している者が非常に多く存在することが推測される。

[Google Scholar とは]

Google Scholar は査読論文、学位論文、プレプリント、書籍、テクニカルレポートなど学術的論文の多くをインデックスして検索できるようにしており、さまざまな学問分野を横断的に検索できる。

- PubMed の検索結果から契約している電子ジャーナルやフリーの電子ジャーナルを閲覧することができる「PubMed Link Out」機能の整備についての意見もあった。これについては平成 17 年中に可能とする予定である。

まとめ

- 電子ジャーナルと同様にアンケート回答者の 64% がデータベースを非常によく利用しており、ほぼ 100% 近くが「研究活動のために必要」としており、学術文献データベースの有用性があらためて示されている。
- アンケート回答者の 85% が現状のサービスで「満足している」としているため、当面は現在のデータベースを提供していけばよいと考えられる。しかし、看護学分野の不満が 20% と分野別では最も高いため、この対策を講じる必要がある。
- このほか、JCR が個人評価のためのツールとなっていることを考えると、同時に実施した「電子ジャーナルに関するアンケート」の中で導入希望のあった、学術論文引用文献データベース (Web of Science や Scopus 等) の導入も検討する必要がある。
- 「EBM による医療」を支援するデータベースである EBMR と UpToDate があまり利用されていない。これらのデータベースは臨床医学分野の要望にこたえるために導入し、17 年度からはインターネット版への切り替えや同時アクセス数の増加等、利用環境を強化したにもかかわらず、その効果があまり上がっていない。これらのデータベースは高額なため、このままの状況が続くならば「スタンドアロン版への切り替え」や「同時アクセス数の減」等のサービス・ダウンも検討する必要がある。

(空白)

アンケート実施要領

医学部における電子サービスについてのアンケート実施要項

第7回医学図書館運営小委員会承認

(平成17年10月14日開催)

経緯

- 第6回医学図書館運営小委員会(H17.6.28開催)において、19年度における電子ジャーナル関連雑誌のあり方を中心とした部分的見直しを実施することが決定された。
- 第30回医学部教授会(H17.7.21開催)において、委員会決定が報告・了承された。

概要/目的

- 医学部における今後の電子的サービス展開の参考とするため、「電子ジャーナルの利用度、満足度、必要とするサービス、電子ジャーナル関連雑誌の必要性、経費負担方法」について調査を行う。
- 併せて学術文献データベースについても同様の調査を行う。
- 調査に合わせ医学部に関連した電子ジャーナル及び学術文献データベースのトライアルを行う。
 - 電子ジャーナル:メディカル・オンライン=国内雑誌、CINAHL with Full Text=看護学分野
 - データベース:Scopus=外国雑誌の引用データベース、First Consult 及び MD Consult=臨床関係ツール
 - 電子ブック=Thieme e-book、今日の診療(今日の治療指針、今日の診断指針、臨床検査データブック等を1つにまとめたもの)

日程

- (省略)

対象

- 医学部教員、附属病院教員、各センター所属教員、附属病院医療職員、教務職員、大学院学生(修士・博士)

方法

- 「松岡地区 Web アンケートシステム」を利用する。(学外からはアクセス不可能)
- 調査依頼は、電子メール及び医学図書館 Web 上の学外アクセス不可のページで行う。また、大学院生へは指導教員に対し電子メールの転送を依頼する。
- 同一人物が何度もアンケートに回答することを避けるため、記名方式を採用する。

アンケート依頼電子メール

平成 17 年 10 月 17 日

松岡地区利用者各位

医学図書館長

村松 郁延

電子ジャーナルとデータベースに関するアンケートについて(お願い)

医学部における今後の電子的サービス展開の参考とするため、「電子ジャーナルの利用全般、電子ジャーナルで利用できるプリント版の必要性」及び「学術文献データベースの利用全般」に関するアンケートを実施することになりました。

お忙しい中、恐縮ですが、今後のサービス展開の参考とするため、ぜひともご協力くださるようお願いいたします。

記

対象

- 医学部教員、附属病院教員、各センター所属教員、附属病院医療職員、教務職員、大学院生(修士・博士)

締め切り

- 平成 17 年 11 月 18 日(金)

方法

- 下記の Web ページからアンケートにお答えください。(学外からのアクセスはできません。)

★「電子ジャーナルの利用全般、電子ジャーナルで利用できるプリント版の必要性」等についてのアンケート

<http://.....>

★「学術文献データベースの利用全般」についてのアンケート

<http://.....>

お願い

- このアンケートは大学院生も対象としていますが、メールアドレスを把握していません。
- 指導教員の方は、ご自分が指導しておられる大学院生の方にこのメールを転送いただくようお願いいたします。

問い合わせ先

- 福井大学医学図書館総括(学務部学術情報課課長補佐)

調査票(電子ジャーナル・アンケート依頼文)

電子ジャーナルに関するアンケートについて

ご協力をお願い

- 電子ジャーナルは大学の教育・研究・診療の推進に必要不可欠なものとなっており、本学でも約 5,600 タイトルを提供しています。
- 17年度は、これらの電子ジャーナルとその関連雑誌(プリント版)の購読に必要な予算の全額が、大学全体の予算(附属図書館共通経費)でまかなわれています。
- しかし、18年度は大学全体の予算で電子ジャーナルのみを購読し、プリント版は医学図書館を始めとした各セクションが負担とすることになりました。
- このため、医学図書館の現状予算では、十分なサービスの提供が困難になることが予想され、その解決策として電子ジャーナルで提供されているプリント版の購読中止などを検討する必要があります。
- つきましては、電子ジャーナル・サービスのあり方や、プリント版の必要性について、松岡地区の皆様のご意見をお伺いします。

平成17年10月17日

医学図書館長 村松郁延

- 期限：平成17年11月18日(金)
- 問い合わせ先：学術情報課課長補佐

調査票(電子ジャーナルアンケート質問用紙)

電子ジャーナルについてのアンケート(医学図書館)

アンケートにお答えになる前に、「電子ジャーナルに関する情報」のページをご覧ください。

「電子ジャーナルに関する情報」に掲載されている内容

- 電子ジャーナルの特長
- 福井大学が提供している電子ジャーナル
- 電子ジャーナルとプリント版の関連性

所属(必須) _____

お名前(必須) _____

I. あなたご自身についてお伺いします

質問1 専門分野はどれにあたりますか。(必須)

1. 人文科学 2. 社会科学 3. 理工学 4. 基礎医学 5. 臨床医学 6. 看護学 7. その他

質問2 年齢はどれにあたりますか。(必須)

1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳代 5. 60歳代

質問3 身分はどれにあたりますか。(必須)

1. 教授 2. 助教授 3. 講師 4. 助手 5. 大学院生 6. その他

II. 電子ジャーナル全般についてお伺いします

質問4 ここ1～2年、電子ジャーナルをどの程度利用していますか。(1つだけ)(必須)

1. ほぼ毎日利用している 2. 週に1～2日程度利用している
3. 月に1～2日程度利用している 4. 今までに利用したことがある
5. どういうものか知っているが利用したことがない 6. 知らなかった

質問5 電子ジャーナルを利用していない方にお聞きます。電子ジャーナルを利用しない理由は何ですか。(いくつでも)

1. 利用したいタイトルがないから 2. 研究分野の収録が少ないから
3. 利用方法がわからないから 4. プリント版があれば十分だから
5. バックナンバーが不十分だから 6. パソコン画面では読みにくいから
7. インターフェースが使いにくいから 8. ダウンロードに時間がかかるから
9. その他()

質問6 今後の研究活動のために電子ジャーナルは必要ですか。(1つだけ)(必須)

1. 絶対に必要 2.ある程度必要 3.あまり必要でない 4.全く必要でない

質問7 電子ジャーナルのバックファイルが何年分あれば満足しますか。(1つだけ)

- 1.最新1年分 2.近5年分 3.近10年分 4.近15年分 5.近20年分 6.近30年分
7.全て

Ⅲ. 本学における電子ジャーナル・サービスについてお伺いします

質問8 福井大学が提供している電子ジャーナルで、よく利用するものはどれですか。(5つまで)

詳細については「福井大学が提供している電子ジャーナル」をご覧ください。

- よく利用する電子ジャーナル1位 _____
よく利用する電子ジャーナル2位 _____
よく利用する電子ジャーナル3位 _____
よく利用する電子ジャーナル4位 _____
よく利用する電子ジャーナル5位 _____

質問9 現在、ご自分が利用できる電子ジャーナル・サービスに満足していますか。(1つだけ)

- 1.満足している 2.不満である

質問10 「不満である」と答えられた方にお聞きます。どのような点が不満ですか。(いくつでも)

- 1.自分の研究分野の電子ジャーナルが導入されていない
2.過去の論文(バックファイル)が利用できない
3.契約中止と同時に今まで購読していた論文も利用できなくなる
4.回線が混んでアクセスができないときが多い
5.図書館から使い方の説明が不十分である
6.その他(_____)

質問11 現在購読している電子ジャーナル・サービス以外に新たに導入を希望するものがありますか。(1つだけ)

- 1.ある 2.特にない

質問12 「ある」と答えられた方にお聞きます。希望するサービスが右のリストにある場合は、該当のものを選んでください。(2つまで)

詳細については「導入候補リスト」をご覧ください。

- 1位 _____ 2位 _____

質問13 「導入候補リスト」に希望するものがない場合は、回答欄に希望するサービスをご記入くだ

さい。

1位 _____

2位 _____

質問 14 「質問 11」で「ある」と答えられた方に引き続きお聞きします。

新たなサービスに必要な予算は、どのようにして確保すればよいでしょうか。(1つだけ)

1. 医学部全体として予算を確保する
2. 必要領域が自己負担する
3. その他()

IV. 電子ジャーナルとプリント版の必要性についてお伺いします

質問 15 今後、大学全体としてどのような方式で雑誌を購入していくべきだとお考えになりますか。

限られた予算の有効活用をはかる意味でも「電子ジャーナルとプリント版の関連性をご覧になった上でご回答ください。(1つだけ)(必須)

1. 電子版で提供されている雑誌はプリント版を中止し電子版のみに切り替える
2. 電子版とプリント版を並行して購入する
3. プリント版で購入すべき
4. その他()

質問 16 「電子版で提供されている雑誌はプリント版を中止し電子版のみに切り替える」と答えられた方に、その理由をお聞きします。(いくつでも)

1. プリント版よりも電子版の方が経費(購読費や製本費など)の節約ができる
2. 電子版の方が速報性がある
3. 検索機能や引用文献へのリンクの機能など、プリント版にはない利便性がある
4. 図書館や研究室など、雑誌の所蔵場所に行かなくても利用することができる
5. その他()

質問 17 「電子版とプリント版を並行して購入する」または「プリント版で購入すべき」と答えられた方にその理由をお聞きします。(いくつでも)

1. 自分の研究分野では電子化がすすんでいない
2. 電子版よりもプリント版の方が利便性がある
3. 電子版は品質やバックナンバーへのアクセスなどの点で問題がある
4. インターネット環境が不十分
5. その他()

V. その他

質問 18 電子ジャーナルと学術文献データベース以外に、どのような電子的サービスを希望しますか。

質問 19 電子ジャーナルについて、日頃感じていることがあれば自由にご記入ください。

調査票(データベース質問用紙)

学術文献データベースについてのアンケート(医学図書館)

学術文献データベースとは

- 学術文献データベースとは、キーワードを指定することにより、論文等の論題、著者名、掲載誌名、抄録等を検索し、「どんな論文があるのか」を調べるためのツールです。
- 雑誌でいえば、「抄録誌」や「索引誌」に相当します。最近では、電子ジャーナルとリンクしたデータベース・サービスもありますが、ここでは、電子ジャーナルとは、別のサービスとお考えください。

所属(必須) _____

お名前(必須) _____

質問1 専門分野はどれにあたりますか。(必須)

1. 人文科学 2. 社会科学 3. 理工学 4. 基礎医学 5. 臨床医学 6. 看護学 7. その他

質問2 年齢はどれにあたりますか。(必須)

1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳代 5. 60歳代

質問3 身分はどれにあたりますか。(必須)

1. 教授 2. 助教授 3. 講師 4. 助手 5. 大学院生 6. その他

質問4 ここ1～2年、データベースをどの程度利用されていますか。(1つだけ)(必須)

1. ほぼ毎日利用している 2. 週に1～2日程度利用している 3. 月に1～2日程度利用している 4. 今までに利用したことがある 5. どのようなものか知っているが利用したことがない 6. 知らなかった

質問5 データベースを利用されている方にお聞きします。

今後の研究活動のために、データベースはどの程度必要ですか。(1つだけ)

1. 絶対に必要 2. ある程度必要 3. あまり必要でない 4. 全く必要でない

質問6 福井大学が提供しているデータベースの利用頻度についてお聞きします。

(a) Medline(PubMed)の利用頻度は

1. ほぼ毎日 2. 週に1～2日程度 3. 月に1～2日程度 4. 今までに数回 5. 利用したことがない

(b) 医中誌 Web の利用頻度は

1. ほぼ毎日
2. 週に1～2日程度
3. 月に1～2日程度
4. 今までに数回
5. 利用したことがない

(c) EBMR の利用頻度は

1. ほぼ毎日
2. 週に1～2日程度
3. 月に1～2日程度
4. 今までに数回
5. 利用したことがない

(d) UpToDate の利用頻度は

1. ほぼ毎日
2. 週に1～2日程度
3. 月に1～2日程度
4. 今までに数回
5. 利用したことがない

(e) CINAHL の利用頻度は

1. ほぼ毎日
2. 週に1～2日程度
3. 月に1～2日程度
4. 今までに数回
5. 利用したことがない

(f) SciFinder Scholar(CA on CD)の利用頻度は

1. ほぼ毎日
2. 週に1～2日程度
3. 月に1～2日程度
4. 今までに数回
5. 利用したことがない

(g) SwetsScan の利用頻度は

1. ほぼ毎日
2. 週に1～2日程度
3. 月に1～2日程度
4. 今までに数回
5. 利用したことがない

(h) JCR Web の利用頻度は

1. ほぼ毎日
2. 週に1～2日程度
3. 月に1～2日程度
4. 今までに数回
5. 利用したことがない

(i) MathScieNet

1. ほぼ毎日
2. 週に1～2日程度
3. 月に1～2日程度
4. 今までに数回
5. 利用したことがない

質問7 現在利用できるデータベースに満足していますか。(1つだけ)

1. 満足している
2. 不満である

質問8 「不満である」と答えられた方にお聞きします。どのような点が不満ですか。(いくつでも)

1. 自分の研究分野のデータベースが導入されていない
2. 過去の論文が検索できない
3. ライセンス数が不足でアクセスできないときが多い。
4. 回線が混んでアクセスできないとき

が多い 5.図書館から使い方の説明が不十分である

6.その他()

質問9 今後、松岡地区としてデータベースをさらに整備すべきとお考えでしょうか。

1.整備すべき 2.現状のままでよい 3.その他()

質問 10 「整備すべき」とお答えになった方にお聞きます。どのようなデータベースを整備する必要がありますか。「データベース名」をご記入ください。(2つまで)

希望順位1 _____

希望順位2 _____

質問 11 「整備すべき」とお答えになった方に引き続きお聞きます。

新たなデータベースの整備に必要な予算は、どのようにして確保すればよいでしょうか。

1. 医学部として予算を確保する 2. 必要領域が自己負担する 3.その他
その他と答えられた方は具体的にご記入ください。

質問 12 データベースの整備について、ご意見・ご要望がありましたらご記入ください。

(空白)

アンケート詳細集計結果

(空白)

「電子ジャーナルに関するアンケート」詳細集計結果

(空白)

質問1 専門分野

質問1 専門分野はどれにあたりますか。

1. 人文科学	2	1.52%
2. 社会科学	2	1.52%
3. 理工学	5	3.79%
4. 基礎医学	33	25.00%
5. 臨床医学	59	44.70%
6. 看護学	17	12.88%
7. その他	14	10.61%
総計	132	100.00%

質問2 年齢

質問2 年齢はどれにあたりますか。

1. 20歳代	5	3.79%
2. 30歳代	49	37.12%
3. 40歳代	50	37.88%
4. 50歳代	23	17.42%
5. 60歳代	5	3.79%
総計	132	100.00%

質問3 身分

質問3 身分はどれにあたりますか。

1. 教授	27	20.45%
2. 助教授	20	15.15%
3. 講師	19	14.39%
4. 助手	44	33.33%
5. 大学院生	4	3.03%
6. その他	18	13.64%
総計	132	100.00%

質問4 EJ利用頻度

質問4 ここ1～2年、電子ジャーナルをどの程度利用していますか。(1つだけ)

1. ほぼ毎日利用している	26	19.70%
2. 週に1～2日程度利用している	52	39.39%
3. 月に1～2日程度利用している	33	25.00%
4. 今までに利用したことがある	13	9.85%
5. どういうものか知っているが利用したことがない	7	5.30%
6. 知らなかった	1	0.76%
総計	132	100.00%

質問4 EJ利用頻度-専門分野別

質問4 ここ1～2年、電子ジャーナルをどの程度利用していますか。(1つだけ)
(専門分野別)

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7. その他	総計
1. ほぼ毎日利用している			1	13	10	2		26
2. 週に1～2日程度利用している			2	17	28	2	3	52
3. 月に1～2日程度利用している	1	1	1	2	16	5	7	33
4. 今までに利用したことがある	1		1	1	2	6	2	13
5. どのようなものか知っているが利用したことがない		1			2	2	2	7
6. 知らなかった					1			1
総計	2	2	5	33	59	17	14	132

(専門分野別)

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7. その他	総計
1. ほぼ毎日利用している	0.00%	0.00%	20.00%	39.39%	16.95%	11.76%	0.00%	19.70%
2. 週に1～2日程度利用している	0.00%	0.00%	40.00%	51.52%	47.46%	11.76%	21.43%	39.39%
3. 月に1～2日程度利用している	50.00%	50.00%	20.00%	6.06%	27.12%	29.41%	50.00%	25.00%
4. 今までに利用したことがある	50.00%	0.00%	20.00%	3.03%	3.39%	35.29%	14.29%	9.85%
5. どのようなものか知っているが利用したことがない	0.00%	50.00%	0.00%	0.00%	3.39%	11.76%	14.29%	5.30%
6. 知らなかった	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.69%	0.00%	0.00%	0.76%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

分析結果

・基礎と臨床が電子ジャーナルを良く利用している。看護系は利用が少ない。

質問4 EJ利用頻度-身分別

質問4 ここ1～2年、電子ジャーナルをどの程度利用していますか。(1つだけ)
(身分別)

	1. 教授	2. 助教授	3. 講師	4. 助手	5. 大学院生	6. その他	総計
1. ほぼ毎日利用している	4	5	5	9	2	1	26
2. 週に1～2日程度利用している	9	8	7	21	1	6	52
3. 月に1～2日程度利用している	11	3	4	8	1	6	33
4. 今までに利用したことがある	1	3	3	4		2	13
5. どのようなものか知っているが利用したことがない	2	1		2		2	7
6. 知らなかった						1	1
総計	27	20	19	44	4	18	132

	1. 教授	2. 助教授	3. 講師	4. 助手	5. 大学院生	6. その他	総計
1. ほぼ毎日利用している	14.81%	25.00%	26.32%	20.45%	50.00%	5.56%	19.70%
2. 週に1～2日程度利用している	33.33%	40.00%	36.84%	47.73%	25.00%	33.33%	39.39%
3. 月に1～2日程度利用している	40.74%	15.00%	21.05%	18.18%	25.00%	33.33%	25.00%
4. 今までに利用したことがある	3.70%	15.00%	15.79%	9.09%	0.00%	11.11%	9.85%
5. どのようなものか知っているが利用したことがない	7.41%	5.00%	0.00%	4.55%	0.00%	11.11%	5.30%
6. 知らなかった	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	5.56%	0.76%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

質問4 EJ利用頻度-年齢別

質問4 ここ1～2年、電子ジャーナルをどの程度利用していますか。(1つだけ)
(年齢別)

	1. 20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代	4. 50歳代	5. 60歳代	総計
1. ほぼ毎日利用している	1	11	12	2		26
2. 週に1～2日程度利用している	2	20	20	9	1	52
3. 月に1～2日程度利用している	1	9	10	11	2	33
4. 今までに利用したことがある		8	4		1	13
5. どのようなものか知っているが利用したことがない	1	1	3	1	1	7
6. 知らなかった			1			1
総計	5	49	50	23	5	132

	1. 20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代	4. 50歳代	5. 60歳代	総計
1. ほぼ毎日利用している	20.00%	22.45%	24.00%	8.70%	0.00%	19.70%
2. 週に1～2日程度利用している	40.00%	40.82%	40.00%	39.13%	20.00%	39.39%
3. 月に1～2日程度利用している	20.00%	18.37%	20.00%	47.83%	40.00%	25.00%
4. 今までに利用したことがある	0.00%	16.33%	8.00%	0.00%	20.00%	9.85%
5. どのようなものか知っているが利用したことがない	20.00%	2.04%	6.00%	4.35%	20.00%	5.30%
6. 知らなかった	0.00%	0.00%	2.00%	0.00%	0.00%	0.76%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

分析結果

・利用頻度及びアンケート回答ともに、30～40代が多く、関心の高さを示している。

質問5 EJ使用しない理由-総表

質問5 電子ジャーナルを利用していない方にお聞きます。電子ジャーナルを利用しない理由は何ですか。(いくつでも)

理由	回答数	比率
1. 利用したいタイトルがない	4	16.00%
2. 研究分野の収録が少ない	6	24.00%
3. 利用方法がわからない	2	8.00%
4. プリント版があれば十分だから	2	8.00%
5. バックナンバーが不十分だから	2	8.00%
6. パソコン画面では読みにくい	4	16.00%
7. インターフェースが使いにくい	0	0.00%
8. ダウンロードに時間がかかる	2	8.00%
9. その他	3	12.00%
総計	25	100.00%

質問6 EIJは必要か

質問5 電子ジャーナルを利用していない方にお聞きします。電子ジャーナルを利用しない理由は何ですか。(いくつでも)
(その他の意見)

10月にこの講座に採用になったばかりでまだ把握できておらず、利用していませんでした。	1
PUBMEDしか使わない	1
画像、組織写真のqualityが悪すぎて、判断できず、読めない。病理画像のカラー写真をもっと良くしないとダメ。	1
空白	128
知らなかったから	1
総計	132

質問6 今後の研究活動のために電子ジャーナルは必要ですか。(1つだけ)

1. 絶対に必要	104	78.79%
2. ある程度必要	23	17.42%
3. あまり必要でない	5	3.79%
総計	132	100.00%

「4. 全く必要でない」との回答は0件

質問6 EIJは必要か-専門分野別

質問6 今後の研究活動のために電子ジャーナルは必要ですか。(1つだけ)
(専門分野別)

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7. その他	総計
1. 絶対に必要		1	2	32	52	7	10	104
2. ある程度必要	1		3	1	5	9	4	23
3. あまり必要でない	1	1			2	1		5
総計	2	2	5	33	59	17	14	132

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7. その他	総計
1. 絶対に必要	0.00%	50.00%	40.00%	96.97%	88.14%	41.18%	71.43%	78.79%
2. ある程度必要	50.00%	0.00%	60.00%	3.03%	8.47%	52.94%	28.57%	17.42%
3. あまり必要でない	50.00%	50.00%	0.00%	0.00%	3.39%	5.88%	0.00%	3.79%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

質問7 電子ジャーナルのバックファイルが何年分あれば満足しますか。(1つだけ)

1. 最新1年分	1	0.76%
2. 近5年分	20	15.15%
3. 近10年分	45	34.09%
4. 近15年分	18	13.64%
5. 近20年分	25	18.94%
6. 近30年分	5	3.79%
7. 全て	18	13.64%
総計	132	100.00%

質問7 EJバックファイル必要期間-専門分野別

質問7 電子ジャーナルのバックファイルが何年分あれば満足しますか。(1つだけ)
(専門分野別)

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7. その他	総計
1. 最新1年分					1			1
2. 近5年分	1		1	2	9	4	3	20
3. 近10年分	1	2	1	11	19	7	4	45
4. 近15年分			1	3	9	4	1	18
5. 近20年分				9	10	2	4	25
6. 近30年分				2	3			5
7. 全て			2	6	8		2	18
総計	2	2	5	33	59	17	14	132

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7. その他	総計
1. 最新1年分	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.69%	0.00%	0.00%	0.76%
2. 近5年分	50.00%	0.00%	20.00%	6.06%	15.25%	23.53%	21.43%	15.15%
3. 近10年分	50.00%	100.00%	20.00%	33.33%	32.20%	41.18%	28.57%	34.09%
4. 近15年分	0.00%	0.00%	20.00%	9.09%	15.25%	23.53%	7.14%	13.64%
5. 近20年分	0.00%	0.00%	0.00%	27.27%	16.95%	11.76%	28.57%	18.94%
6. 近30年分	0.00%	0.00%	0.00%	6.06%	5.08%	0.00%	0.00%	3.79%
7. 全て	0.00%	0.00%	40.00%	18.18%	13.56%	0.00%	14.29%	13.64%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

松岡地区EJアクセス統計

松岡地区における電子ジャーナル・フルテキスト・アクセス統計(医学・総合分野)

2005/12/06現在

出版社等	2002年			2003年			2004年			2005年			合計			備考
	件数	比率	順位	件数	比率	順位	件数	比率	順位	件数	比率	順位	件数	比率	順位	
Elsevier	10,499	51.68%	1	19,385	66.40%	1	26,815	74.85%	1	21,192	75.33%	1	77,891	73.30%	1	
Springer	1,412	6.95%	4	1,572	5.38%	4	1,797	5.02%	4	1,324	4.71%	4	6,105	5.75%	4	
ProQuest (Health and Medical Complete)	3,116	15.34%	3	3,215	11.01%	3	4,544	12.68%	2	2,589	9.20%	3	8,931	8.40%	3	
Nature Group										3,026	10.76%	2	3,026	2.85%	5	西地区合算の統計
Wiley	5,287	26.03%	2	5,022	17.20%	2	2,667	7.44%	3				10,309	9.70%	2	2004年一杯で中止
合計	20,314	100.00%		29,194	100.00%		35,823	100.00%		28,131	100.00%		106,262	100.00%		

2005年

Elsevier 1月～10月の件数
Springer 1月～9月の件数
ProQuest(HMC) 1月～10月の件数

質問8よく利用するEJ-総表

質問8 福井大学が提供している電子ジャーナルで、よく利用するものはどれですか。(5つまで)

コレクション名	1位		2位		3位		4位		5位		ポイント合計	ポイント順位
	回答数	ポイント	回答数	ポイント	回答数	ポイント	回答数	ポイント	回答数	ポイント		
1. ACS Web Editions (化学系)	0	0	11	4	5	15	0	0	2	2	21	6
2. ACM Portal(情報処理系)	0	0	2	8	11	3	2	4	1	1	16	8
3. APS Journals(物理学系)	3	15	11	4	0	0	1	2	0	0	21	6
4. IEEE OSLSP-e(情報処理系)	0	0	11	4	0	0	0	0	0	0	4	9
5. Nature Publishing Group(自然科学系)	11	55	20	80	12	36	11	22	1	1	194	4
6. ProQuest-Academic Research Library(人文系)	2	10	3	12	2	6	0	0	2	2	30	5
7. ProQuest-Health and Medical Complete(医学系)	46	230	23	92	21	63	13	26	5	5	416	1
8. Science Direct(全分野)	48	240	29	116	5	15	2	4	2	2	377	2
9. Springer-LINK(全分野)	12	60	17	68	25	75	15	30	0	0	233	3
無回答	10		35		61		88		119			
総計	132		132		132		132		132			

ポイント付与方法: 1位=5点、2位=4点、3位=3点、4位=2点、5位=1点

質問9 EJ満足度

質問9 現在、ご自分が利用できる電子ジャーナル・サービスに満足していますか。(1つだけ)

1. 満足している	41	31.06%
2. 不満である	81	61.36%
無回答	10	7.58%
総計	132	100.00%

質問9 EJ満足度-専門分野別

質問9 現在、ご自分が利用できる電子ジャーナル・サービスに満足していますか。(1つだけ)
(専門分野別)

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7.その他	総計
1. 満足している		1	1	7	18	9	5	41
2. 不満である		2		4	26	6	7	81
無回答		1			5	2	2	10
総計		2	2	5	33	17	14	132

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7.その他	
1. 満足している	0.00%	50.00%	20.00%	21.21%	30.51%	52.94%	35.71%	31.06%
2. 不満である	100.00%	0.00%	80.00%	78.79%	61.02%	35.29%	50.00%	61.36%
無回答	0.00%	50.00%	0.00%	0.00%	8.47%	11.76%	14.29%	7.58%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

質問10不満足-総表

質問10 「不満である」と答えられた方にお聞きします。どのような点が不満ですか。(いくつでも)

理由	回答数	比率
1. 自分の研究分野の電子ジャーナルが導入されていない	67	44.67%
2. 過去の論文(バックファイル)が利用できない	44	29.33%
3. 契約中止と同時に今まで購読していた論文も利用できなくなる	21	14.00%
4. 回線が混んでアクセスが出来ないときが多い	7	4.67%
5. 図書館から使い方の説明が不十分である	2	1.33%
6. その他	9	6.00%
総計	150	100.00%

質問10不満足=6.その他

質問10 「不満である」と答えられた方にお聞きします。どのような点が不満ですか。(いくつでも)
(その他の意見)

(不可能であろうが)全雑誌をカバーしておらず、電子ジャーナルで読めないジャーナルがいっぱいある。	1
Blackwell Synergy	1
Nature Cancer reserch PNASなどメジャータイトルほど、雑誌購入であり、いちいちとりに行くのが面倒。むしろ、ビッグジャーナルほど電子化の契約をしてほしい。紙媒体は盲必要なしと考える	1
Nature Reviews: Molecular Cell Biologyがない	1
print版があっても電子ジャーナルが利用できないメジャーな雑誌が多い。	1
Scienceなど幾つかの主要ジャーナルが電子版で利用できない	1
インパクトファクターが高い重要な雑誌の多くには電子ジャーナルとしてよめるのは、発行1年後からというのが多いため、最新の情報を入手するのに、文献複写をするしかない	1
画像、組織写真がダメ	1
看護学関連ジャーナルは少ない。	1
空白	121
研究分野の専門誌が含まれていない。例: MCB, JBC, Cell Pressの雑誌、PNAS、など	1
電子ジャーナルによっては最新1年間の論文の全文(full text)をダウンロードできないものがある(Embargo?)。これはとても困る。	1
総計	132

質問11 EJ新規希望の有無

質問11 現在購読している電子ジャーナル・サービス以外に新たに導入を希望するものがありますか。(1つだけ)

1. ある	68	51.52%
2. 特にない	57	43.18%
無回答	7	5.30%
総計	132	100.00%

質問11 EJ新規希望の有無-専門分野別

質問11 現在購読している電子ジャーナル・サービス以外に新たに導入を希望するものがありますか。(1つだけ)
(専門分野別)

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7. その他	総計
1. ある			1	25	29	8	5	68
2. 特にない	2	2	4	7	27	8	7	57
無回答			1	3	1	2		7
総計	2	2	5	33	59	17	14	132

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7. その他	総計
1. ある	0.00%	0.00%	20.00%	75.76%	49.15%	47.06%	35.71%	51.52%
2. 特にない	100.00%	100.00%	80.00%	21.21%	45.76%	47.06%	50.00%	43.18%
無回答	0.00%	0.00%	0.00%	3.03%	5.08%	5.88%	14.29%	5.30%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

質問11 EJ新規希望の有無-身分別

質問11 現在購読している電子ジャーナル・サービス以外に新たに導入を希望するものがありますか。(1つだけ)
(身分別)

	1. 教授	2. 助教授	3. 講師	4. 助手	5. 大学院生	6. その他	総計
1. ある	12	14	10	23	2	7	68
2. 特にない	14	6	6	20	2	9	57
無回答	1		3	1		2	7
総計	27	20	19	44	4	18	132

	1. 教授	2. 助教授	3. 講師	4. 助手	5. 大学院生	6. その他	総計
1. ある	44.44%	70.00%	52.63%	52.27%	50.00%	38.89%	51.52%
2. 特にない	51.85%	30.00%	31.58%	45.45%	50.00%	50.00%	43.18%
無回答	3.70%	0.00%	15.79%	2.27%	0.00%	11.11%	5.30%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

質問11 EJ新規希望の有無-年齢別

質問11 現在購読している電子ジャーナル・サービス以外に新たに導入を希望するものがありますか。(1つだけ)

(年齢別)

	1. 20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代	4. 50歳代	5. 60歳代	総計
1. ある	4	25	28	8	3	68
2. 特にない	1	23	17	14	2	57
無回答		1	5	1		7
総計	5	49	50	23	5	132

	1. 20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代	4. 50歳代	5. 60歳代	総計
1. ある	80.00%	51.02%	56.00%	34.78%	60.00%	51.52%
2. 特にない	20.00%	46.94%	34.00%	60.87%	40.00%	43.18%
無回答	0.00%	2.04%	10.00%	4.35%	0.00%	5.30%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

質問12 EJ新規希望-総表

質問12 希望するサービスが右のリストにある場合は、該当のものを選んでください。(2つまで)

ポイント付与方法: 1位=10点、2位=5点

コレクション名	1位		2位		合計		ポイントによる順位	2006年概算価格			備考
	回答数	ポイント	回答数	ポイント	回答数	ポイント		EJ	冊子	合計	
Cell Press	16	160	7	35	23	195	1	1,200		1,200	
Blackwell Synergy (Blackwell Publishing)	7	70	9	45	16	115	2	1,400	1,500	2,900	
Wiley InterScience (John Wiley)	7	70	9	45	16	115	2	10,300	3,300	13,600	
Science	8	80	7	35	15	115	2	667		667	
LWW (Lippincott, Williams and Wilkins)	8	80	5	25	13	105	5	2,300	1,700	4,000	
CINAHL with Full Text	9	90	2	10	11	100	6	670		670	
BMJ (British Medical Journal Publishing Group)	6	60	4	20	10	80	7	500		500	
OUP (Oxford University Press)	3	30	3	15	6	45	8			0	
Karger	1	10	6	30	7	40	9			0	
メディカル・オンライン	2	20	3	15	5	35	10	1,869		1,869	
CINAHL (IBNACIS-ELS)	0	0	2	10	2	10	11			0	
CUP (Cambridge University Press)	0	0	0	0	0	0	12			0	
MD Consult	0	0	0	0	0	0	12	2,910		2,910	
FIRST Consult	0	0	0	0	0	0	12	2,847		2,847	
無回答	65				65					0	
総計	132		57		189					0	

質問13 EJ新規希望(記述式)-総表

質問13 「導入候補リスト」に希望するものがない場合は、回答欄に希望するサービスをご記入ください。

整理番号	順位	備考	アクセス先
1) Blood	1	フリー・ジャーナルで提供、アクセス制限1年間	Free Access Journals (HighWire) 1946 to present (Embargo: 1 year)
3) Br. J.Pharmacol	1	現在提供せず	
3) Cell	1	現在提供せず	
1) Immunity	1	現在提供せず	
1) J Immunol	1	フリー・ジャーナルで提供、アクセス制限1年間	Free Access Journals (HighWire) 1998 - 2004 (Embargo: 1 year)
3) J. Urology	1	現在提供せず	
2) Mol.Cell.Biol.	1	現在提供せず	
3) Neuron	1	現在提供せず	
Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America: PNAS	1	フリー・ジャーナルで提供、アクセス制限6ヶ月間	Free Access Journals (HighWire) 1915 - 2005 (Embargo: 6 months)
3) Science	1	現在提供せず	
8) J.Biol.Chem.	2	フリー・ジャーナルで提供、アクセス制限1年間	Free Medical Journals 1905 to present (Embargo: 1 year)

1) Nature	1	提供中	Nature Journals Online 1997 to present
1) Nature Immunol	1	提供中	Nature Journals Online 2000 to present
1) Nature Med	1	提供中	Nature Journals Online 1998 to present
1) Nature Rev Immunol	1	提供中	Nature Journals Online 2001 to present

注) 整理番号が同一番号は同一人物が複数のタイトルの1位としてあげていることを示す。

質問14 新規EJ予算確保

質問14 「質問11」で「ある」と答えられた方に引き続きお聞きします。新たなサービスに必要な予算は、どのようにして確保すればよいでしょうか。(1つ)

1. 医学部全体として予算を確保する	55	80.88%
2. 必要領域が自己負担する	7	10.29%
3. その他	6	8.82%
総計	68	100.00%

質問14 新規EJ予算確保-その他

質問14 「質問11」で「ある」と答えられた方に引き続きお聞きします。新たなサービスに必要な予算は、どのようにして確保すればよいでしょうか。(1つだけ)(その他の意見)

Scienceなど全分野にまたがるものは学部全体で予算を確保し、専門性の強いものは自己負担する場合があってもよい	1
サービスが多ければ多い程良いのは当然ですが、費用対効果も考えないといけない時代ですので、医学部だけの問題ではなく、大学全体で考えるものと思います。	1
何らかの方法で、共通性の高いものとそうでないものに振り分けられないであろうか(このようなアンケートで点数を付ける、ジャーナルごとのアクセス頻度を集計するなど)	1
科研費の5%程度をin-direct costとして図書購入に利用する	1
研究機関として整えるべき設備として、大学の経費で賄うべき	1
大学で予算を確保するというのは当然だが、利用状況に応じて利用者に負担をしてもらうのがよいのではないかと? 文献複写と同じ程度で考えてはどうか?	1
空白	126
総計	132

質問15 EJ印刷体の必要性

質問15 今後、大学全体としてどのような方式で雑誌を購入していくべきだとお考えになりますか。

1. 電子版で提供されている雑誌はプリント版を中止し電子版のみに切り替え	108	81.82%
2. 電子版とプリント版を並行して購入する	14	10.61%
3. プリント版で購入すべき	2	1.52%
4. その他	8	6.06%
総計	132	100.00%

質問15 EJ印刷体の必要性-その他

質問15 今後、大学全体としてどのような方式で雑誌を購入していくべきだとお考えになりますか。
(その他の意見)

EJのみだと、予算がひっ迫してEJ購入が継続できなくなると、過去にさかのぼって大学全体で文献等を学外に全て依存することになるので、特に限定したコアになるジャーナルについては、プリント版も購入した方が良いでしょう。最新の論文も全文ダウンロードできるならば、プリント版を中止しても良いと思う。

やはり、必要性によるのではないかと。ずっと、その電子ジャーナルを確保するというのでないのなら、基本的な雑誌はやはりプリント版でも確保する必要があると思われる。逆に、個人的には、Science Directのほとんどの雑誌は、わざわざプリント版をおいておくほどのこともないものが多いと思う。

一流紙は電子版とプリント版を平行して購入すべき

画像、組織写真がダメ

基本的には電子版でよいのですが、将来、出版社にすべてを牛耳られるようで、ちょっと怖いところがあります。

実際どれだけ利用されているのか知らないので答えようがない

電子版が読めなくなったことにより文献複写をせざるえない費用を考えると、医学部全体で文献複写に使っている私費の合計で、あらたに電子ジャーナルの契約をふやせるのでは。受益者負担もむなしとしても、利便性をあげるべき

本来、プリント版で手にとって見ることにより、目的とした文献以外にも目を通すことができ、有意義と思っていますが、費用の面でのことを考えると、プリント版を中止することもやむ得ないかと思えます。ただ、この場合、過去の論文を安価に手に入れる方法があればと期待します。

質問16 EJ印刷体は不要理由-総表

質問16 「電子版で提供されている雑誌はプリント版を中止し電子版のみに切り替える」と答えられた方に、その理由をお聞きます。(いくつでも)

	回答数	比率
1. プリント版よりも電子版の方が経費(購読費や製本費など)の節約ができる	87	28.90%
2. 電子版の方が速報性がある	60	19.93%
3. 検索機能や引用文献へのリンクの機能など、プリント版にはない利便性がある	56	18.60%
4. 図書館や研究室など、雑誌の所蔵場所に行かなくても利用することができる	93	30.90%
5. その他	5	1.66%
総計	301	100.00%

質問16 EJ印刷体は不要理由-その他

質問16 「電子版で提供されている雑誌はプリント版を中止し電子版のみに切り替える」と答えられた方に、その理由をお聞きます。(いくつでも)
(その他の意見)

PDFファイルとして個人的データベースを持ち、省スペースで保存できる。リプリントをPDFでもらう(送ってくる)ため、PDFでの整理を行っている。

コピー用紙の削減

プリント版も大切だが、経費が少ないのなら、できるだけ多くの雑誌を読める方が良いでしょう。

画質が複写よりもきれい。自分のPC上で管理できる。

雑誌になっていることで、学生の学びの機会を確保すべき

予算のきついつことを考慮すると仕方ない。

質問17 印刷体必要理由-総表

質問17 「電子版とプリント版を並行して購入する」または「プリント版で購入すべき」と答えられた方にその理由をお聞きます。(いくつでも)

理由	回答数	比率
1. 自分の研究分野では電子化がすすんでいない	6	26.09%
2. 電子版よりもプリント版の方が利便性がある	3	13.04%
3. 電子版は品質やバックナンバーへのアクセスなどの点で問題がある	10	43.48%
4. インターネット環境が不十分	2	8.70%
5. その他	2	8.70%
	23	100.00%

質問17 印刷体必要理由-その他

質問17 「電子版とプリント版を並行して購入する」または「プリント版で購入すべき」と答えられた方にその理由をお聞きます。(いくつでも)(その他の意見)

12年後に、例えば、10年分の電子ジャーナルのみを契約とした場合今から2年分の雑誌に全くアクセスすることができなくなる。それが基本的な雑誌であったならば、それは問題である。基本的な雑誌であれば契約しているであろうが、この先どうなるか不明な点もある。
EJのみだと、予算がひっ迫してEJ購入が継続できなくなると、過去にさかのぼって大学全体で文献等を学外に全て依存することになるので、特に限定したコアになるジャーナルについては、プリント版も購入した方がよい。
看護学においては、まだまだ電子ジャーナル化しているものが少ないため、電子ジャーナルよりもプリント版を置いて欲しい。
契約中止と同時に今まで購読していた論文も利用できなくなる。これが一番の問題点です。

質問18希望サービス

質問18 電子ジャーナルと学術文献データベース以外に、どのような電子的サービスを希望しますか。

質問18希望サービス種類	集計
2. データベース	2
4. ネットワークサービス	4
5. 講習会	1
6. その他	2
	9

質問18 希望する電子的サービス(内容)
(DDS) 図書館で複写依頼をしたものも、PDFにしてメールで送ってくれるとうれしいです。
(DDS) 電子ジャーナルでは見ることのできないペーパーに関しては、PDFの形で機関図書館および福井大学図書館から送付してもらえるようなシステムの導入を検討して頂くことを希望しています。システムの導入は、紙の節約および利便性に関してメリットがあるのではと考えています。
EBMRとUP TO DATEは継続して下さい。CLINICAL EvidenceもWEBアクセスできれば良いと思います。
いつでも(深夜も)快適に利用できるよう、サーバーの強化をしてほしい。ちょこちょこサーバーが停止したりして使えなくなるのは非常に不便です。(このことは図書館への希望ではないのかもしれませんが)
プリント版の新着情報が欲しい
現在は特にありません。
自分書いた論文がどの程度、引用されているかを知る、ことができるSCIのサービスを是非利用したい。
新規の学術文献の検索機能などの講習会にはほとんど出席できないために、その内容等について図書館のホームページ等で紹介して下さい。
人口動態統計などの電子情報、地図情報の提供
図書館での(自分のコンピュータによる)LANへのアクセスができるとう利ではないでしょうか?ワイアレスLANのセットアップはどうでしょう?机の上で、書き物をしながらちょっと検索などしたい時があります。

質問19EJについての意見-内容

質問19 電子ジャーナルについて、日頃感じていることがあれば自由にご記入ください。

15では上記のように選択したが、本来製本した本は必要であるとする。個人的には電子ジャーナルは付加的なものであるべきであると思う。また、出版社はやや横暴が過ぎるのではないか？全国的にこの問題は解決すべきだと思う。
インターネット上、読みたい論文にアクセスできないことが多い。
インターネット上で論文内容にアクセスできるところまで行ったが、有料のため事実上見れない論文がある。会員でないのはいけないかもしれませんが…。通常の個人接続では、そのページにも入れないので、行けるか？と思った分ガッカリしてしまいます。また、自宅や学外(出張先)からのアクセス回線を増やしていただき、外からでも医大にアクセスして自由に論文検索が、学内と同じ回線速度レベルでできれば、なお素晴らしいと思います。勝手な意見で済みません。
タイトル検索に時間がかかる。以前の松岡バージョンのほうがわかりやすかった。
とにかく必要な論文が手に入りにくいのは、困る。
プリント版を中止した場合、過去の文献が電子版でとれなくなるとこまると思います。
メンテナンス時期にあたると、すぐに文献が手に入らないというストレスを感じることがあります。
看護、心理学の電子ジャーナルが少ないので、使いたい結局有効な利用ができない。医学系が多いので、利用頻度の低いジャーナルは廃止し、看護、心理学の電子ジャーナルを増やしてほしい。システムとしては、いちいち図書でコピーする手間が省け、電子情報として保存、加工もできるたいへん便利なものだが、ほしいジャーナルがないので、使用頻度は低くなっている。
契約していない雑誌が多く、必要な情報収集ができない。研究を進める上で、大きな問題である。
事務経費にあまりにもお金を使うよりも、学問のために電子ジャーナルにお金を使うべき。
自分がよく使用する雑誌は、自分で学会員になっていたりするので、殆どが自分でログインできる。逆に年に数回しかアクセスしないものほど、電子ジャーナルのありがたみを感じています。
自分の研究領域の関連した電子ジャーナルが以前はみれたのに、全く利用しない人文、科学、物理系の電子ジャーナルが変わりに採用されているため、不便になった。電子ジャーナルから雑誌のリンクに飛ぶのに、自分の必要な雑誌のみのリストのカスタマイズはできないのか。現在の索引はいらない雑誌名が多すぎて非常に不便である。
出来るだけ多くの電子ジャーナルの購読を希望します。
松岡と文京どちらからでも共有できるようにしてください。
図書館主催の電子ジャーナル勉強会に過去2回ほど参加しています。まだ、まだ電子ジャーナルの使いこなしがみについていない気がしますが、プリント版の定期購読しているから電子データにアクセスできるはずなのにできないとき。また、薬剤部ではすべての部員が何らかの目的で必ずどこかで電子ジャーナルを利用しています。しかし、使い方がまだまだ十分でないと思われます。特に、女性はコンピュータに対してまだまだ抵抗感がありますし、電子ジャーナルの勉強会・講習会も「女性教員・職員のための電子ジャーナル講習会」など企画されてもおもしろ
組織写真がダズ。字が小さくて読めない。
大学で契約していない電子ジャーナルなどで情報が得られる場合は、すぐにでもほしい場合はユーザー登録してしまおうが、基本的にすべての文献に届く状況だとありがたい。ないものは文献複写依頼をだせばよいのだろうけれど。
地方大学においても世界レベルの情報を得ることは必須であります。大学の方針として、方向として世界を目指すなら、世界レベルの情報を確保すべきであると思います。ジャーナルの目次部分はContents Alertとして、日頃入手していますが、本文を閲覧できない悲しさも日頃味わっております。よろしく願いいたします。
電子ジャーナルで閲覧できる雑誌を増やして欲しい。
電子ジャーナルの検索ページが新、旧と2種類あるので、利用可能な雑誌を集めて統一してほしい。
電子ジャーナル一覧のページ内で、目的のジャーナルのボタンに辿り着くまでに、少し、ストレスを感じる。「My Favorites」みたいなものを作れるといい。もし、作れるのなら、その方法を教えてほしい。
電子版で見ることができない一流紙を見ることができるようしてほしい。CellやN Engl J Medなど
脳神経系・画像関係のジャーナルが少ない
非常に便利なものと思いますが、読みたいと思うものが手に入らないことが多いです。ところでこのアンケートにどうして名前が必要なのですか？
本院から利用可能な電子ジャーナルリストが少々わかりにく気がします。また、閲覧可能な年がはっきり分からないこと、最新版が全文見られないケースがよくあると思います。(感染症関連が専門分野ですが…)結局、図書館の方に複写依頼をお願いしているケースがく申し訳なく思っています。
目的の論文が決まっている時は便利だが、ばらばらと眺めるのには現状のインタフェースでは少し不満がある。

(空白)

「学術文献データベースに関するアンケート」詳細集計結果

(空白)

質問1 専門分野

質問1 専門分野はどれにあたりますか。

1. 人文科学	2	2.04%
2. 社会科学	2	2.04%
3. 理工学	1	1.02%
4. 基礎医学	27	27.55%
5. 臨床医学	40	40.82%
6. 看護学	15	15.31%
7. その他	11	11.22%
総計	98	100.00%

質問2 年齢

質問2 年齢はどれにあたりますか。

1. 20歳代	6	6.12%
2. 30歳代	35	35.71%
3. 40歳代	38	38.78%
4. 50歳代	16	16.33%
5. 60歳代	3	3.06%
総計	98	100.00%

質問3 身分

質問3 身分はどれにあたりますか。

1. 教授	18	18.37%
2. 助教授	13	13.27%
3. 講師	13	13.27%
4. 助手	36	36.73%
5. 大学院生	2	2.04%
6. その他	16	16.33%
総計	98	100.00%

質問4 DB利用頻度

質問4 ここ1～2年、データベースをどの程度利用されていますか。(1つだけ)

1. ほぼ毎日利用している	29	29.59%
2. 週に1～2日程度利用している	34	34.69%
3. 月に1～2日程度利用している	27	27.55%
4. 今までに利用したことがある	5	5.10%
5. どのようなものか知っているが利用したことがない	3	3.06%
総計	98	100.00%

質問4 DB利用頻度-専門分野別

質問4 ここ1～2年、データベースをどの程度利用されていますか。(1つだけ)
(専門分野別)

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7. その他	総計
1. ほぼ毎日利用している				17	10	2		29
2. 週に1～2日程度利用している				7	15	8	4	34
3. 月に1～2日程度利用している		1	1	3	14	5	3	27
4. 今までに利用したことがある	2						3	5
5. どのようなものか知っているが利用したことがない		1			1		1	3
総計	2	2	1	27	40	15	11	98

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7. その他	総計
1. ほぼ毎日利用している	0.00%	0.00%	0.00%	62.96%	25.00%	13.33%	0.00%	29.59%
2. 週に1～2日程度利用している	0.00%	0.00%	0.00%	25.93%	37.50%	53.33%	36.36%	34.69%
3. 月に1～2日程度利用している	0.00%	50.00%	100.00%	11.11%	35.00%	33.33%	27.27%	27.55%
4. 今までに利用したことがある	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	27.27%	5.10%
5. どのようなものか知っているが利用したことがない	0.00%	50.00%	0.00%	0.00%	2.50%	0.00%	9.09%	3.06%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

質問4 DB利用頻度-身分別

質問4 ここ1～2年、データベースをどの程度利用されていますか。(1つだけ)
(身分別)

	1. 教授	2. 助教授	3. 講師	4. 助手	5. 大学院生	6. その他	総計
1. ほぼ毎日利用している	4	6	5	13		1	29
2. 週に1～2日程度利用している	7	4	2	15	1	5	34
3. 月に1～2日程度利用している	5	2	6	7	1	6	27
4. 今までに利用したことがある	1	1				3	5
5. どのようなものか知っているが利用したことがない	1			1		1	3
総計	18	13	13	36	2	16	98

	1. 教授	2. 助教授	3. 講師	4. 助手	5. 大学院生	6. その他	総計
1. ほぼ毎日利用している	22.22%	46.15%	38.46%	36.11%	0.00%	6.25%	29.59%
2. 週に1～2日程度利用している	38.89%	30.77%	15.38%	41.67%	50.00%	31.25%	34.69%
3. 月に1～2日程度利用している	27.78%	15.38%	46.15%	19.44%	50.00%	37.50%	27.55%
4. 今までに利用したことがある	5.56%	7.69%	0.00%	0.00%	0.00%	18.75%	5.10%
5. どのようなものか知っているが利用したことがない	5.56%	0.00%	0.00%	2.78%	0.00%	6.25%	3.06%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

質問4 DB利用頻度-年齢別

質問4 ここ1～2年、データベースをどの程度利用されていますか。(1つだけ)
(年齢別)

	1. 20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代	4. 50歳代	5. 60歳代	総計
1. ほぼ毎日利用している	2	11	12	4		29
2. 週に1～2日程度利用している	3	12	12	6	1	34
3. 月に1～2日程度利用している		9	11	6	1	27
4. 今までに利用したことがある	1	2	1		1	5
5. どのようなものか知っているが利用したことがない		1	2			3
総計	6	35	38	16	3	98

	1. 20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代	4. 50歳代	5. 60歳代	総計
1. ほぼ毎日利用している	33.33%	31.43%	31.58%	25.00%	0.00%	29.59%
2. 週に1～2日程度利用している	50.00%	34.29%	31.58%	37.50%	33.33%	34.69%
3. 月に1～2日程度利用している	0.00%	25.71%	28.95%	37.50%	33.33%	27.55%
4. 今までに利用したことがある	16.67%	5.71%	2.63%	0.00%	33.33%	5.10%
5. どのようなものか知っているが利用したことがない	0.00%	2.86%	5.26%	0.00%	0.00%	3.06%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

質問5 DBは必要か

質問5 データベースを利用されている方にお聞きします。今後の研究活動のために、データベースはどの程度必要ですか。(1つだけ)

1. 絶対に必要	83	84.69%
2. ある程度必要	13	13.27%
総計	98	100.00%

質問5 DBIは必要か-専門分野別

質問5 データベースを利用されている方にお聞きします。今後の研究活動のために、データベースはどの程度必要ですか。(1つだけ)(専門分野別)

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7. その他	総計
1. 絶対に必要		1		25	36	15	6	83
2. ある程度必要	2		1	1	4		5	13
		1		1				2
総計	2	2	1	27	40	15	11	98

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7. その他	総計
1. 絶対に必要	0.00%	50.00%	0.00%	92.59%	90.00%	100.00%	54.55%	84.69%
2. ある程度必要	100.00%	0.00%	100.00%	3.70%	10.00%	0.00%	45.45%	13.27%
	0.00%	50.00%	0.00%	3.70%	0.00%	0.00%	0.00%	2.04%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

質問6 (a)PubMed頻度

質問6 福井大学が提供しているデータベースの利用頻度についてお聞きします。

(a) Medline(PubMed)の利用頻度は

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7. その他	総計
1. ほぼ毎日				16	16	2		34
2. 週に1~2日程度		1		9	13	6	1	30
3. 月に1~2日程度				2	10	5	6	23
4. 今までに数回	1					2	4	7
5. 利用したことがない	1	1	1		1			4
総計	2	2	2	27	40	15	11	98

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7. その他	総計
1. ほぼ毎日	0.00%	0.00%	0.00%	59.26%	40.00%	13.33%	0.00%	34.69%
2. 週に1~2日程度	0.00%	50.00%	0.00%	33.33%	32.50%	40.00%	9.09%	30.61%
3. 月に1~2日程度	0.00%	0.00%	0.00%	7.41%	25.00%	33.33%	54.55%	23.47%
4. 今までに数回	50.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	13.33%	36.36%	7.14%
5. 利用したことがない	50.00%	50.00%	100.00%	0.00%	2.50%	0.00%	0.00%	4.08%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

考察

- よく利用する(「ほぼ毎日」と「週に1~2日程度」)との回答が基礎医学では93%、臨床医学では73%を占める。
- 看護学分野は53%と医学分野に比べて低い。

質問6 DB利用頻度-総表

質問6 福井大学が提供しているデータベースの利用頻度についてお聞きします。(全データベース)

	質問6 (a) PubMed		質問6 (b) 医中誌		質問6 (c) EBMR		質問6 (d) UpToDate		質問6 (e) CINAHL		質問6 (f) SciFinder		質問6 (g) SwetScan		質問6 (h) JCR		質問6 (i) MathSciNet	
	回答	比率	回答	比率	回答	比率	回答	比率	回答	比率	回答	比率	回答	比率	回答	比率	回答	比率
1. ほぼ毎日	34	35%	6	6%	1	1%	1	1%	1	1%								
2. 週に1~2日程度	30	31%	20	20%	3	3%	7	7%	7	7%	2	2%	2	2%	3	3%	1	1%
3. 月に1~2日程度	23	23%	32	33%	8	8%	3	3%	4	4%					14	15%	1	1%
4. 今までに数回	7	7%	17	17%	29	30%	20	21%	17	18%	10	10.42%	3	3.16%	21	22%	4	4%
5. 利用したことがない	4	4%	23	23%	55	57%	65	68%	65	69%	84	88%	90	95%	58	60%	89	94%
総計	98	100%	98	100%	96	100%	96	100%	94	100%	96	100%	95	100%	96	100%	95	100%

質問6 (b) 医中誌頻度

質問6 福井大学が提供しているデータベースの利用頻度についてお聞きします。

(b) 医中誌Webの利用頻度は

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7. その他	総計
1. ほぼ毎日					4	2		6
2. 週に1~2日程度					2	8	4	20
3. 月に1~2日程度			1		4	19	5	32
4. 今までに数回					8	6		17
5. 利用したことがない		2	1	1	13	5		23
総計		2	2	1	27	40	15	98

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7. その他	総計
1. ほぼ毎日	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	10.00%	13.33%	0.00%	6.12%
2. 週に1~2日程度	0.00%	0.00%	0.00%	7.41%	15.00%	53.33%	36.36%	20.41%
3. 月に1~2日程度	0.00%	0.00%	0.00%	14.81%	47.50%	33.33%	27.27%	32.65%
4. 今までに数回	0.00%	0.00%	0.00%	29.63%	15.00%	0.00%	27.27%	17.35%
5. 利用したことがない	100.00%	50.00%	100.00%	48.15%	12.50%	0.00%	9.09%	23.47%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

考察

- 臨床医学分野の利用は「月に1~2日程度」が48%中心となっている。
- 基礎医学分野ではほとんど利用されていない。「今までに数回」が30%、「利用したことがない」が48%、合わせて78%にもなる。

質問6 (c) EBMR頻度

質問6 福井大学が提供しているデータベースの利用頻度についてお聞きします。

(c) EBMRの利用頻度は

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7.その他	総計
1. ほぼ毎日					1	1		1
2. 週に1~2日程度				1	1	1		3
3. 月に1~2日程度		1		1	2	2	2	8
4. 今までに数回				7	14	6	2	29
5. 利用したことがない	2	1	1	18	21	5	7	55
無回答				1	1	1		2
総計	2	2	1	27	40	15	11	98

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7.その他	総計
1. ほぼ毎日	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.50%	0.00%	0.00%	1.02%
2. 週に1~2日程度	0.00%	0.00%	0.00%	3.70%	2.50%	6.67%	0.00%	3.06%
3. 月に1~2日程度	0.00%	50.00%	0.00%	3.70%	5.00%	13.33%	18.18%	8.16%
4. 今までに数回	0.00%	0.00%	0.00%	25.93%	35.00%	40.00%	18.18%	29.59%
5. 利用したことがない	100.00%	50.00%	100.00%	66.67%	52.50%	33.33%	63.64%	56.12%
無回答	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.50%	6.67%	0.00%	2.04%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

考察

- 臨床医学分野の利用は「月に1~2日程度」が48%中心となっている。
- 基礎医学分野ではほとんど利用されていない。「今までに数回」が30%、「利用したことがない」が48%、合わせて78%にもなる。
- EBMRの利用対象となる臨床医学分野の利用は、よく利用するとの回答が臨床医学分野の5%(2人)であり、「利用したことがない」が53%、「今までに数回」との回答と合わせると86%にもなる。
- EBMの概念は現代医療の中心となっており、臨床医学分野の強い要望により導入したにもかかわらず、この状態は看過することはできない。

質問6 (d) UpToDate頻度

質問6 福井大学が提供しているデータベースの利用頻度についてお聞きします。

(d) UpToDateの利用頻度は

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7.その他	総計
1. ほぼ毎日					1			1
2. 週に1~2日程度				1	2	1	3	7
3. 月に1~2日程度					1	1	1	3
4. 今までに数回				5	8	4	3	20
5. 利用したことがない	2	2	1	21	27	8	4	65
無回答					1	1		2
総計	2	2	1	27	40	15	11	98

(d) UpToDateの利用頻度は

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7.その他	総計
1. ほぼ毎日	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.50%	0.00%	0.00%	1.02%
2. 週に1~2日程度	0.00%	0.00%	0.00%	3.70%	5.00%	6.67%	27.27%	7.14%
3. 月に1~2日程度	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.50%	6.67%	9.09%	3.06%
4. 今までに数回	0.00%	0.00%	0.00%	18.52%	20.00%	26.67%	27.27%	20.41%
5. 利用したことがない	100.00%	100.00%	100.00%	77.78%	67.50%	53.33%	36.36%	66.33%
無回答	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.50%	6.67%	0.00%	2.04%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

考察

- UpToDateは平成17年4月からネットワーク対応とし、松岡キャンパスのどこからでも利用可能とした。
- しかし、EBMRと同様に非常に利用率が低い。
- ちなみによく利用するグループ(「ほぼ毎日」と「週に1~2日程度」)は8%、「利用したことがない」との回答は臨床医学分野の68%と非常に大きな割合を占める。

質問6 (e) CINAHL頻度

質問6 福井大学が提供しているデータベースの利用頻度についてお聞きします。

(e) CINAHLの利用頻度は

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7.その他	総計
1. ほぼ毎日						1		1
2. 週に1~2日程度					3	4		7
3. 月に1~2日程度					3	8	4	15
4. 今までに数回		1			3	4	1	9
5. 利用したことがない	2	1	1	24	26	11	10	65
無回答					3	1		4
総計	2	2	1	27	40	15	11	98

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7.その他	総計
1. ほぼ毎日	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	6.67%	0.00%	1.02%
2. 週に1~2日程度	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	7.50%	26.67%	0.00%	7.14%
3. 月に1~2日程度	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	26.67%	0.00%	4.08%
4. 今までに数回	0.00%	50.00%	0.00%	11.11%	20.00%	26.67%	9.09%	17.35%
5. 利用したことがない	100.00%	50.00%	100.00%	88.89%	65.00%	6.67%	90.91%	66.33%
無回答	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	7.50%	6.67%	0.00%	4.08%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

考察

- よく利用する(「ほぼ毎日」と「週に1~2日程度」)との回答は当然のことながら看護学分野が33%と最も多い。
- 同じく、看護学分野でも「利用したことがない」との回答もあるが、この回答者は「質問6 (a)PubMed利用頻度」で「ほぼ毎日利用している」と回答している。看護学分野でも専門分野によってはCINAHL以外のデータベースが有用なことが判明した。

質問6 (f) SciFinder頻度

質問6 福井大学が提供しているデータベースの利用頻度についてお聞きします。

(f) SciFinder Scholar(CA on CD)の利用頻度は

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7.その他	総計
2. 週に1~2日程度					1	1		2
4. 今までに数回					2	6	1	9
5. 利用したことがない	2	2	1	25	32	12	10	84
無回答					1	1		2
総計	2	2	1	27	40	15	11	98

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7.その他	総計
2. 週に1~2日程度	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.50%	6.67%	0.00%	2.04%
4. 今までに数回	0.00%	0.00%	0.00%	7.41%	15.00%	6.67%	9.09%	10.20%
5. 利用したことがない	100.00%	100.00%	100.00%	92.59%	80.00%	80.00%	90.91%	85.71%
無回答	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.50%	6.67%	0.00%	2.04%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

考察

- SciFinder Scholar(化学分野)については、ネットワーク経由の利用についても要望として掲げられているが、松岡地区情報処理センターの対応を待つよりない。(ネットワーク利用の契約となっているが、松岡地区のセキュリティ等の関係から医学図書館では利用できない。)

質問6 (g) SwetsScan頻度

質問6 福井大学が提供しているデータベースの利用頻度についてお聞きします。
(g) SwetScanの利用頻度は

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7.その他	総計
2. 週に1~2日程度					1	1		2
4. 今までに数回				1	2			3
5. 利用したことがない	2	2	1	26	35	13	11	90
無回答					2	1		3
総計	2	2	1	27	40	15	11	98

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7.その他	総計
2. 週に1~2日程度	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.50%	6.67%	0.00%	2.04%
4. 今までに数回	0.00%	0.00%	0.00%	3.70%	5.00%	0.00%	0.00%	3.06%
5. 利用したことがない	100.00%	100.00%	100.00%	96.30%	87.50%	86.67%	100.00%	91.84%
無回答	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	5.00%	6.67%	0.00%	3.06%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

考察
 ・回答者の92%が「利用したことがない」と回答している。このデータベースは全分野をカバーしたものであるが、ほとんどのデータがPubMedと重複しているため、医学分野の利用者にとってのメリットはないと思われる。
 ・このデータベースは医学分野の外国雑誌約3,000タイトル以外に、人文・社会科学分野約7,000タイトル、自然科学分野約6,000タイトルを収録している。松岡地区の人文・社会科学・自然科学分野の研究者にとっては、外国雑誌論文を検索できる有効なツールであるため、PRがもっと必要であろう。

質問6 (h) JCR頻度

質問6 福井大学が提供しているデータベースの利用頻度についてお聞きします。
(h) JCR Webの利用頻度は

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7.その他	総計
2. 週に1~2日程度					2	1		3
3. 月に1~2日程度					7	6		14
4. 今までに数回			1		8	10		21
5. 利用したことがない	2	1	1	12	21	12	9	58
無回答					1	1		2
総計	2	2	1	27	40	15	11	98

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7.その他	総計
2. 週に1~2日程度	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	5.00%	6.67%	0.00%	3.06%
3. 月に1~2日程度	0.00%	0.00%	0.00%	25.93%	15.00%	6.67%	0.00%	14.29%
4. 今までに数回	0.00%	50.00%	0.00%	29.63%	25.00%	0.00%	18.18%	21.43%
5. 利用したことがない	100.00%	50.00%	100.00%	44.44%	52.50%	80.00%	81.82%	59.18%
無回答	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.50%	6.67%	0.00%	2.04%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

考察
 ・このデータベースの本来の利用方法は、各雑誌のインパクトファクターの変遷を見ることにより、「現在注目されている研究を知り、その動向を把握する」ことである。しかし、日本では本来の利用の仕方からはずれ、個人評価のためのツールとなっている。
 ・大学の医学部でも研究活動一覧にJCRのインパクトファクターを掲載することが義務づけられるなど、日本国内と同様な誤った利用方法となっていると思われる。
 ・「ほぼ毎日」との回答はないが、これは研究動向を把握する場合も、研究者の評価のために利用される場合も、ある程度のサイクルで利用されることになるため、当然の結果といえる。
 ・全体の利用者の59%が「利用したことがない」と回答しているため、このデータベースについても利用方法を周知し、学術研究に役立つものであることを積極的に伝える必要がある。

[参考]
 ・JCRの本来の利用方法は、注目されている研究を知り、その動向を把握するためのものである。日本では個人評価のためのツールとして、誤った利用方法が主となっている。個人評価には、Web of Science (Sciece Citation Index of the Web版) やScopusなどの引用文献データベースを利用すべきである。

質問6 (i) MathSciNet頻度

質問6 福井大学が提供しているデータベースの利用頻度についてお聞きします。
(i) MathSciNetの利用頻度は

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7.その他	総計
2. 週に1~2日程度					1			1
3. 月に1~2日程度						1		1
4. 今までに数回				1	3			4
5. 利用したことがない	2	2	1	26	34	13	11	89
無回答					2	1		3
総計	2	2	1	27	40	15	11	98

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7.その他	総計
2. 週に1~2日程度	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.50%	0.00%	0.00%	1.02%
3. 月に1~2日程度	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	6.67%	0.00%	1.02%
4. 今までに数回	0.00%	0.00%	0.00%	3.70%	7.50%	0.00%	0.00%	4.08%
5. 利用したことがない	100.00%	100.00%	100.00%	96.30%	85.00%	86.67%	100.00%	90.82%
無回答	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	5.00%	6.67%	0.00%	3.06%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

考察
 ・全回答者のうち、91%が「利用したことがない」と回答しているが、医学部では当然の結果であろう。しかし、看護学分野で1人が「月に1~2日程度」利用すると回答している。

質問7 満足度

質問7 現在利用できるデータベースに満足していますか。(1つだけ)

1.満足している	83	84.69%
2.不満である	13	13.27%
無回答	2	2.04%
総計	98	100.00%

質問7 満足度-専門分野別

質問7 現在利用できるデータベースに満足していますか。(1つだけ)
(専門分野別)

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7. その他	総計
1. 満足している	1	1		26	33	12	10	83
2. 不満である			1	1	7	3	1	13
無回答	1	1						2
総計	2	2	1	27	40	15	11	98

	1. 人文科学	2. 社会科学	3. 理工学	4. 基礎医学	5. 臨床医学	6. 看護学	7. その他	総計
1. 満足している	50.00%	50.00%	0.00%	96.30%	82.50%	80.00%	90.91%	84.69%
2. 不満である	0.00%	0.00%	100.00%	3.70%	17.50%	20.00%	9.09%	13.27%
無回答	50.00%	50.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.04%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

質問7 満足度-利用頻度別

質問7 現在利用できるデータベースに満足していますか。(1つだけ)
(利用頻度別)

	1. 満足している	2. 不満である	無回答	総計
1. ほぼ毎日利用している	28	1		29
2. 週に1~2日程度利用している	30	4		34
3. 月に1~2日程度利用している	20	7		27
4. 今までに利用したことがある	3	1	1	5
5. 什么东西もか知っているが利用したことがない	2		1	3
総計	83	13	2	98

	1. 満足している	2. 不満である	無回答	総計
1. ほぼ毎日利用している	33.73%	7.69%	0.00%	29.59%
2. 週に1~2日程度利用している	36.14%	30.77%	0.00%	34.69%
3. 月に1~2日程度利用している	24.10%	53.85%	0.00%	27.55%
4. 今までに利用したことがある	3.61%	7.69%	50.00%	5.10%
5. 什么东西もか知っているが利用したことがない	2.41%	0.00%	50.00%	3.06%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

質問8 DB不満点-総表

質問8 「不満である」と答えられた方にお聞きします。どのような点が不満ですか。(いくつでも)

不満な理由	回答数	比率
1. 自分の研究分野のデータベースが導入されていない	7	25.00%
2. 過去の論文が検索できない	10	35.71%
3. ライセンス数が不足でアクセスできないときが多い。	3	10.71%
4. 回線が混んでアクセスできないときが多い	2	7.14%
5. 図書館から使い方の説明が不十分である	4	14.29%
6. その他	2	7.14%
総計	28	100.00%

質問8 DB不満点-その他

質問8 「不満である」と答えられた方にお聞きします。どのような点が不満ですか。(いくつでも)
(その他の意見)

SciFinder Scholarの全サービスを自由に使えない
看護学の研究活動には不可欠な心理系のデータベース(psycinfo)が無い。したがって、他大学まで検索しにいかなければならない。

質問9 DB整備方針

質問9 今後、松岡地区としてデータベースをさらに整備すべきとお考えでしょうか。

1.整備すべき	14	14.29%
2.現状のままでよい	72	73.47%
無回答	12	12.24%
総計	98	100.00%

質問9 DB整備方針-専門分野別

質問9 今後、松岡地区としてデータベースをさらに整備すべきとお考えでしょうか。
(専門分野別)

	1.整備すべき	2.現状のままでよい	無回答	総計
1. 人文科学			1	1
2. 社会科学			1	1
3. 理工学			1	1
4. 基礎医学	2	20	5	27
5. 臨床医学	7	30	3	40
6. 看護学	3	10	2	15
7.その他	2	9		11
総計	14	72	12	98

	1.整備すべき	2.現状のままでよい	無回答	総計
1. 人文科学	0.00%	50.00%	50.00%	100.00%
2. 社会科学	0.00%	50.00%	50.00%	100.00%
3. 理工学	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
4. 基礎医学	7.41%	74.07%	18.52%	100.00%
5. 臨床医学	17.50%	75.00%	7.50%	100.00%
6. 看護学	20.00%	66.67%	13.33%	100.00%
7.その他	18.18%	81.82%	0.00%	100.00%
総計	14.29%	73.47%	12.24%	100.00%

質問9 DB整備方針-利用頻度別

質問9 今後、松岡地区としてデータベースをさらに整備すべきとお考えでしょうか。
(利用頻度別)

	1.整備すべき	2.現状のままでよい	無回答	総計
1. ほぼ毎日利用している	2	21	6	29
2. 週に1~2日程度利用している	5	27	2	34
3. 月に1~2日程度利用している	6	19	2	27
4. 今までに利用したことがある	1	3	1	5
5. どのようなものか知っているが利用したことがない		2	1	3
総計	14	72	12	98

	1.整備すべき	2.現状のままでよい	無回答	総計
1. ほぼ毎日利用している	14.29%	29.17%	50.00%	29.59%
2. 週に1~2日程度利用している	35.71%	37.50%	16.67%	34.69%
3. 月に1~2日程度利用している	42.86%	26.39%	16.67%	27.55%
4. 今までに利用したことがある	7.14%	4.17%	8.33%	5.10%
5. どのようなものか知っているが利用したことがない	0.00%	2.78%	8.33%	3.06%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

質問10 DB新規希望-記述式-総表

質問10 「整備すべき」とお答えになった方にお聞きします。
どのようなデータベースを整備する必要がありますか。「データベース名」をご記入ください。(2つまで)

データベース名	順位	備考
British nursing index	2	
Cell press、Blackwell Science、LWW の出版を含んだデータベースを希望	1	電子ジャーナルとして検討
psycinfo	1	「質問8 DB不満点-その他」で看護学の必須DBとして掲げられている。
SciFinder Scholarのネットワーク利用	1	松岡地区情報処理センターにて対応が必要
大宅壮一雑誌記事索引	1	文京地区にて利用可能
朝日新聞戦前紙面データベース	1	文京地区にて利用可能

(導入済み)

MathSciNet	1	既にネットワークで利用可能
SwetsScan	2	既にネットワークで利用可能

質問11 新規DB予算確保

質問11 新たなデータベースの整備に必要な予算は、どのようにして確保すればよいでしょうか。

	集計	無回答を 除く比率
1. 医学部として予算を確保する	13	72.22%
2. 必要領域が自己負担する	1	5.56%
3. その他	4	22.22%
無回答		
総計	18	100.00%

(その他の意見)

データベースの内容による。
 科研費を含めた獲得研究費の内、一定割合をin-direct costとして使用する。
 研究機関として大学が整えるべき設備であるから、大学の予算で措置すべき
 大学として確保

EJ新規希望サービス中のDB要求

質問18 電子ジャーナルと学術文献データベース以外に、どのような電子的サービスを希望しますか。

診療用ツール

(DDS) 図書館で複写依頼をしたものも、PDFにしてメールで送ってくれるとうれしいです。
 (DDS) 電子ジャーナルでは見ることのできないペーパーに関しては、PDFの形で機関図書館および福井大学
 図書館から送付してもらえるようなシステムの導入を検討して頂くことを希望しています。システムの導入
 は、紙の節約および利便性に関してメリットがあるのではと考えています。
 EBMRとUP TO DATEは継続して下さい。CLINICAL EvidenceもWEBアクセスできれば良いと思います。
 いつでも(深夜も)快適に利用できるよう、サーバーの強化をしてほしい。ちょこちょこサーバーが停止したり
 して使えなくなるのは非常に不便です。(このことは図書館への希望ではないのかもしれませんが)
 プリント版の新着情報が欲しい
 現在は特にありません。
 自分書いた論文がどの程度、引用されているかを知る、ことのできるSCIのサービスを是非利用したい。
 新規の学術文献の検索機能などの講習会にはほとんど出席できないために、その内容等について図書館
 のホームページ等で紹介して下さい。
 人口動態統計などの電子情報、地図情報の提供
 図書館での(自分のコンピュータによる)LANへのアクセスができると便利ではないでしょうか?ワイアレス
 LANのセットアップはどうでしょう?机の上で、書き物をしながらちょっと検索などしたい時があります。

Web of Science

質問12 DBについての意見・要望-内容

質問12 データベースの整備について、ご意見・ご要望がありましたらご記入ください。

google scholarが優れていると思う。
 PubMed以外は使わないので、特にありません。
 データベースとしてはPubMed、JCR、その他にGoogle scholarを使うことでほぼ満足しています。
 個人的にはPubMedと医中誌さえ使えたら、あまり困りません。
 松岡・文京どこからでもアクセスできるようにしてください。
 新しいデータベースの講習会にはほとんど出席する時間がなく、使用方法がわかりません。図書館のホームページ等に
 使用方法が掲載されているのでしょうか。
 特に問題になっている意識はない。ただ、PubMedから、電子ジャーナルにたくさんつながり、全文見れる割合が増えると
 良いですけど…。

電子ジャーナル・学術文献データベースに関するアンケート報告書

2006年2月発行

編集者 福井大学学務部学術情報課

発行者 福井大学附属図書館医学図書館

〒910-1194 福井県吉田郡松岡町下合月23-3

Tel 0776-61-3111 Fax 0776-61-8100

<http://www.lib.fukui-med.ac.jp/>

